



平成14年度 鹿児島大学概要

Outline of KAGOSHIMA UNIVERSITY 2002



田 中 弘 允 学長

鹿児島大学は、南九州にあってわが国の大規模な総合大学の一つとして、創立以来50余年にわたりその使命を充分に果たして参りました。本学は、旧制第七高等学校造士館、鹿児島師範学校、鹿児島青年師範学校、鹿児島農林専門学校及び鹿児島水産専門学校を母体として、文理・教育・農・水産の4学部をもって昭和24年に創設されました。その後、医学部と工学部の増設、文理学部改組による法文学部、理学部、教養部の新設、歯学部を設置が行われています。そして平成9年4月1日より教養部の廃止転換と8学部の改組・充実が行われ4（6）年一貫教育となりました。

現在、法文・教育・理・医・歯・工・農・水産の8学部と大学院の8研究科からなっており、学生数約1万1千人、教官数、職員数それぞれ1千百余人を擁しています。また附属図書館、地域共同研究センター、総合情報処理センター、多島圏研究センター、アイソトープ総合センター、留学生センター、総合研究博物館、機器分析センター、生命科学資源開発研究センターなどの全学附属施設が設置されています。その他、学部には附属学校・幼稚園、附属病院、農場、演習林、家畜病院などの諸施設や大型練習船などがあり、本学の教育・研究上の特徴をかたちづいています。

本学は、人文科学、社会科学、自然科学、生命科学といった多くの学問分野の教官に恵まれ、また諸施設・設備が整っていますので、教育面では幅広い教養教育と専門教育を実施することができ、また研究面では伝統的学術研究に加えて、最近提起されている食糧、家庭・学校・職場などの人間関係、環境、離島などに関する複雑かつ重要な地球的・社会的・地域的課題を解決することもできます。

これらの課題の解決には、多面的な取り組みが必要ですが、本学では全学の英知を結集して研究に当たるため、すでに全学合同研究プロジェクトが進められ一定の成果をあげつつあります。それらは、「大地、食、人間の健康を保全する環境革命への試行－鹿児島県をケーススタディーとして－」（これは有機農業プロジェクトと呼ばれています。）、「新しい関係性を求めて－コミュニケーションの諸相－」、「開放系／半開放系ゴミ処理と地域資源循環型社会の構築に関する研究」、「地域学の創造－新しい鹿児島学－」、「離島学の構築」、「『磯焼け』発生機構の研究」、「牛海綿状脳症（BSE）対策プロジェクト」の7つの研究プロジェクトです。いずれも社会への政策提言を目標の一つとしていますが、その成果は全世界に発信する価値があるものです。このように本学は、地域に根ざした大学として地域現場に学ぶと共に、地域社会の活性化を目指しています。同時に14ヵ国37大学と国際交流協定を結んでおり、また36ヵ国・地域から300名の留学生が学んでいるなど、国際化にも実績があります。

本学が位置する鹿児島は、南北600kmにわたって豊かな自然と海、島々、火山、温泉に恵まれており、桜島、錦江湾、世界自然遺産屋久島は鹿児島の象徴ともなっています。鹿児島の人々は明治維新の原動力となった西郷隆盛を敬愛し、鉄砲伝来やザビエル上陸などの歴史的出来事を誇りにしています。

鹿児島市の中心を占めるキャンパスには、南国特有のヤシやソテツ、桜並木、自然林、農園、池などがあり、陸上競技場、プールなどの諸施設も整っています。まさに、学問、スポーツ、市民との交流など様々の活動に適した環境にあるということが出来ます。

本学は、伝統的学問領域における学術文化の継承と最先端の知的創造、豊かな人間性と幅広い教養を持った社会人の育成、地域の総合的教育研究と全世界特に中国、東南アジア、韓国などとの学術交流、地域的・地球的課題の解決などを目指して常に進化し、人類の福祉に貢献致します。

学 年 暦

学 年	前 期	4月1日～9月30日
	後 期	10月1日～3月31日
入 学 式		4月4日
休 業	春 季 休 業	4月1日～4月10日
	夏 季 休 業	8月1日～9月30日
	冬 季 休 業	12月25日～1月8日
	鹿児島大学記念日	11月15日
卒 業 式		3月25日

Contents

● 沿革概要図	2	● 卒業（修了）生数及び就職状況	38
● 運営機構図	4	● 学位授与状況	39
● 共通教育等	6	● 奨学生	39
● 学部・大学院等	7	● 国際学術交流協定大学	40
● 山口大学大学院連合獣医学研究科	17	● 外国人研究者の受入状況	41
● 附属図書館	18	● 学術刊行物	41
● 学内共同教育研究施設	20	● 研究員等の受入状況	42
● 全学共同利用施設	22	● 歳入歳出決算	42
● 体育施設	22	● 各種学術研究費	42
● 厚生施設等	23	● 公開講座	44
● 全学合同研究プロジェクト	25	● 土地・建物・船舶	45
● 歴代学長	28	● 地区別建物等配置図	46
● 役職員	28	● 交通機関利用略図	49
● 職員の現員	30	● 所在地一覧	50
● 学生の定員・現員	31	● キャンパスの全景	51
● 外国人留学生	34	● 鹿児島大学位置図	52
● 入学状況	36		

沿革概要図

藩学造士館—廃止 (安永2 (1773)) (明4) (明17.12) (明20.12改称文部省直轄) (明29.9廃校) (明29.9設置) (明34.3設置) 高等学校大学予科 (明34.6～大10.8) 第七高等学校 (昭21.3改称)

小学校授業講習所—鹿児島師範学校 (明8.5) (明9.9改称)

小学正則講習所—鹿児島女子師範学校 (明9.10改称)

鹿児島師範学校—鹿児島県尋常師範学校—鹿児島県師範学校—鹿児島県第一師範学校—鹿児島県師範学校 (明13.11合併改称) (明20.3改称) (明31.4改称) (大9.4改称) (昭9.3改称)

鹿児島第二師範学校 (大9.4設置)

鹿児島県女子師範学校 (明43.4設置)

鹿児島県立実業補習学校教員養成所—鹿児島県立青年学校教員養成所—鹿児島青年師範学校 (大13.4) (昭10.4改称) (昭19.4国立移管)

鹿児島高等農林学校—鹿児島農林専門学校 (明41.3) (昭19.4改称)

鹿児島県立商船学校—鹿児島商船学校—廃校—鹿児島水産専門学校 (明41.5) (昭14.8国立移管) (昭21.2) (昭21.4設置)

島津藩医学校—鹿児島県立医学校—廃止 (明2.3設置) (明14改称) (明22) (昭18.4設置 昭27.3廃止) (昭22.6設置)

島津藩病院—鹿児島県病院—市立鹿児島病院—県立鹿児島病院—県立鹿児島医学専門学校附属病院 (明2.3設置) (明4.7改称) (明26.9移管) (明40改称) (昭18.4移管改称)

鹿児島県立工業専門学校 (昭20.4設置)

県立鹿児島大学

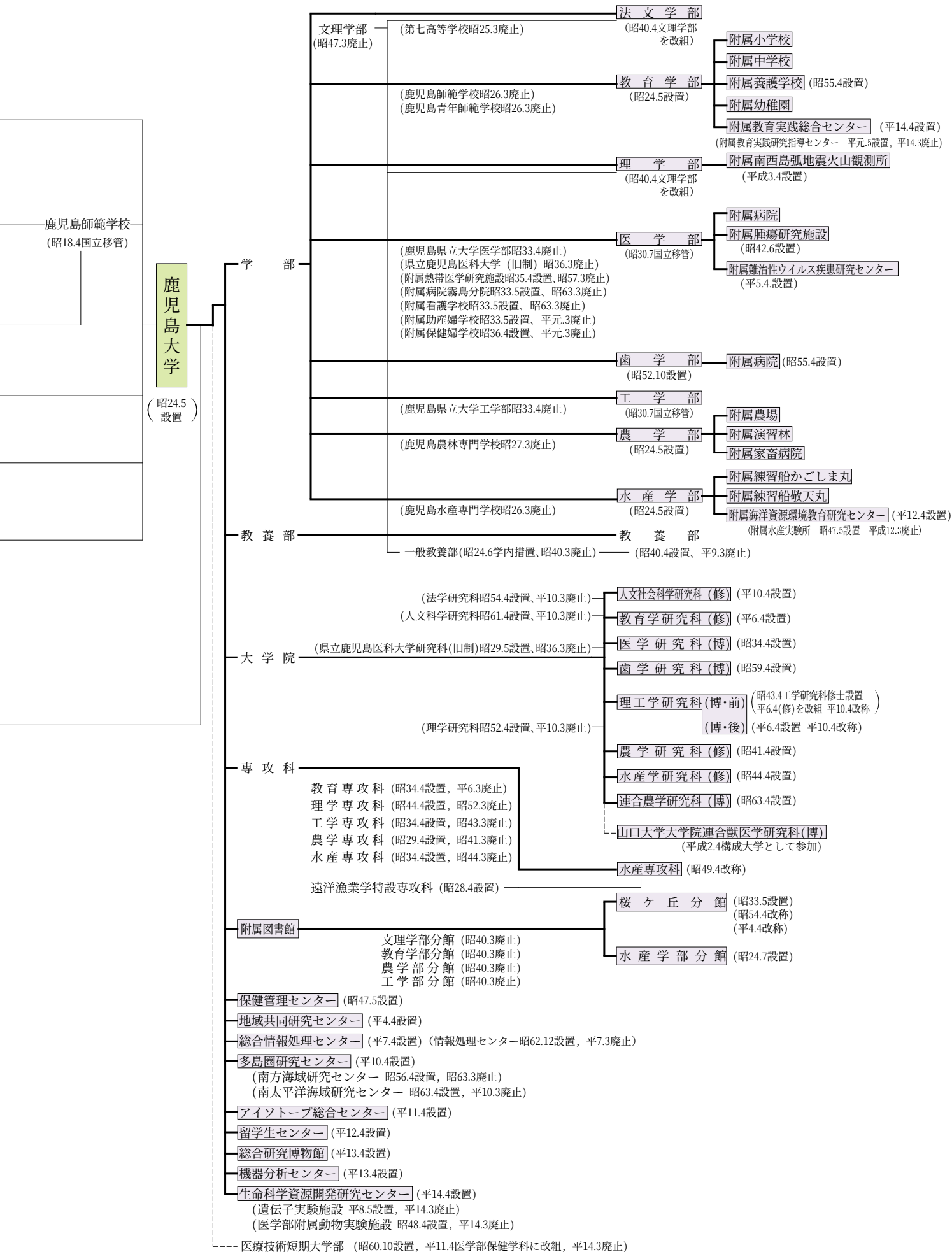
(昭24.2設置)

医科大学工学部

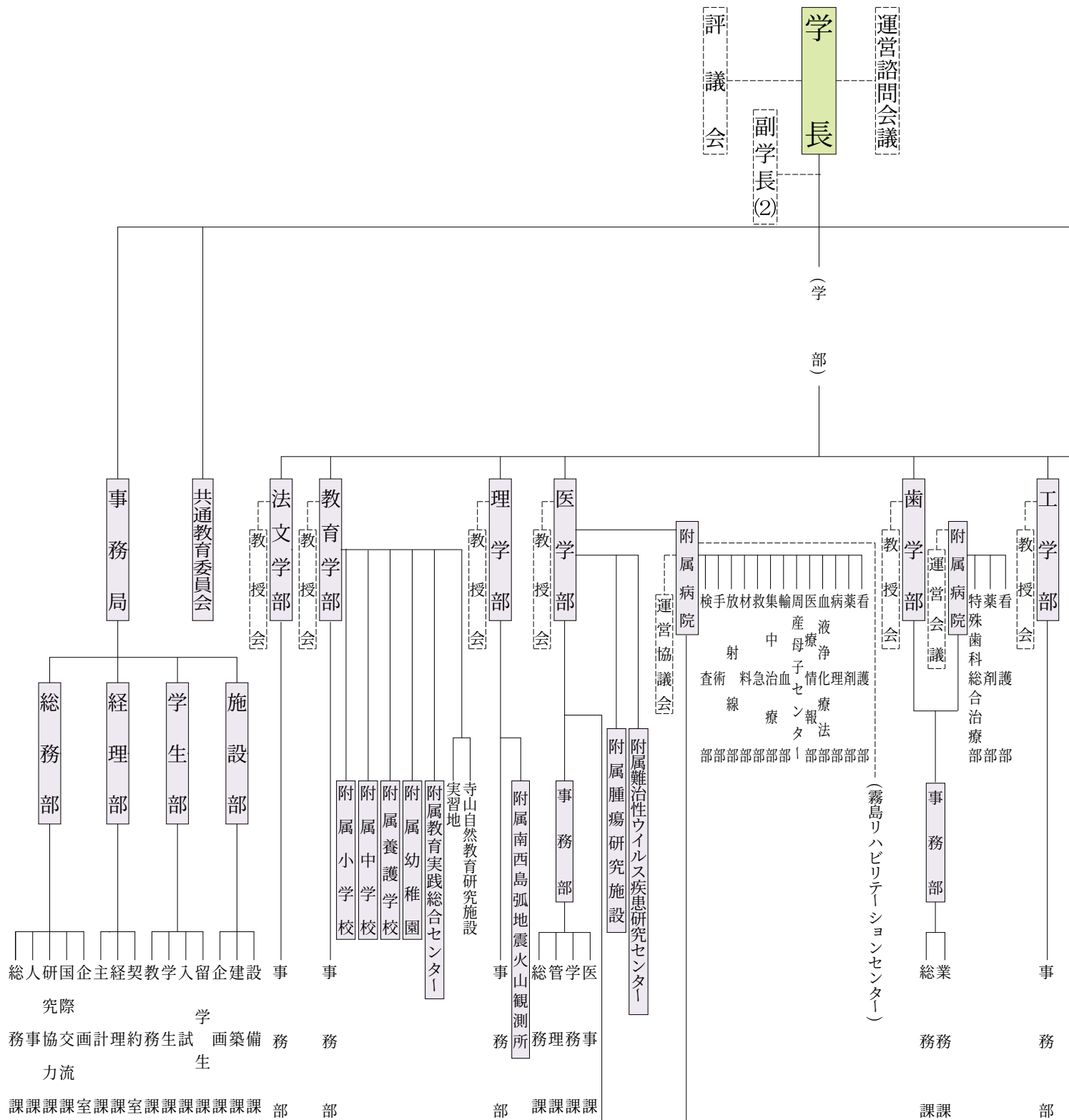
鹿児島県立大学

(昭24.6改称)

医学部 (昭27.2設置)



運営機構図



共通教育等



鹿児島大学では、平成3年の大学設置基準の大綱化にともない、組織改革と教育改革を実施した。「鹿児島大学の新しい教育」においては、これまでの一般教育科目等にかわって共通教育科目等を導入することとした。

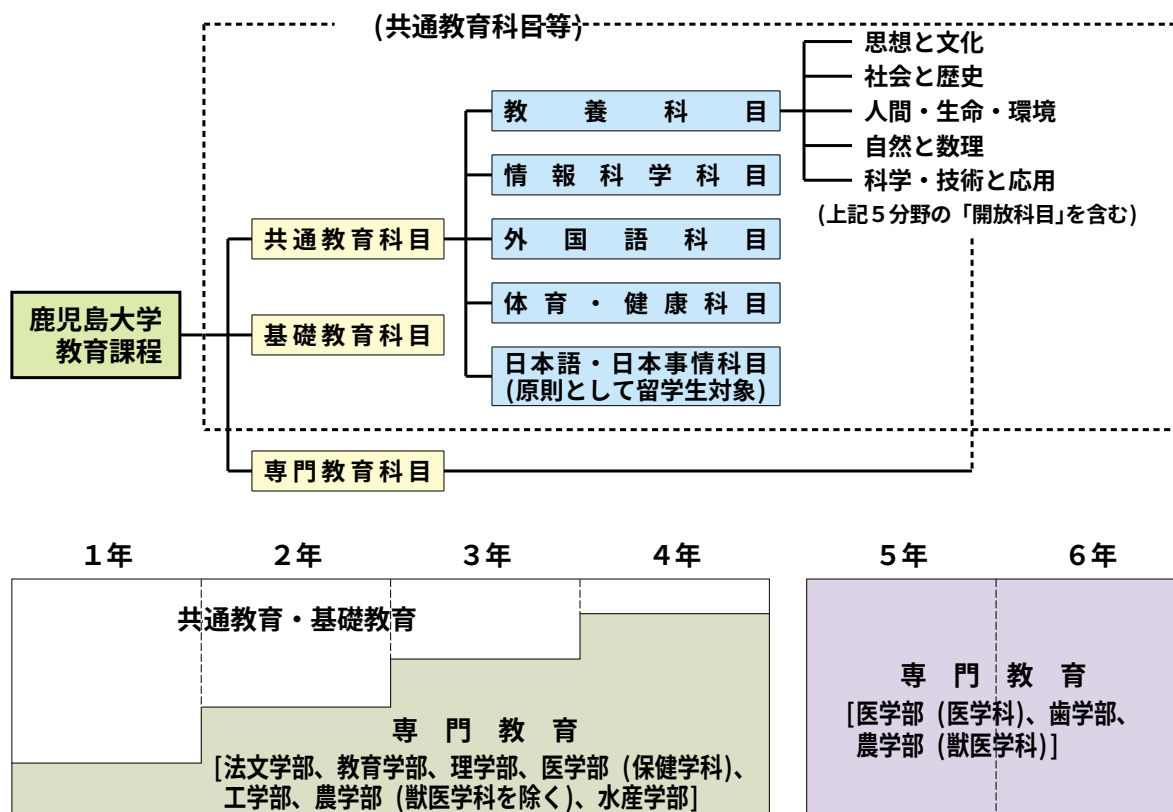
このため、平成9年3月に教養部を廃止し、それに代わる共通教育の企画・運営の責任組織として、鹿児島大学共通教育委員会を設置して、4（6）年一貫教育を全学教官の協力体制で実施している。

本学の教育は、共通教育科目、基礎教育科目、専門教育科目の三本柱に区分され、そのうち、共通教育科目は、教養科目、情報科学科目、外国語科目、体育・健康科目および外国人留学生等のための日本語・日本事情科目から構成されている。教養科目には、専門教育科目の一部を他学部の学生が受講できるように開設している各学部の「開放科目」も含まれる。

共通教育では、①広い視野から諸科学・学問と人間性の係わりについての理解を深める、②人類と日本社会が直面している基本的問題のありかと、それに係わる知見の現状を明らかにし、学ぶことの今日の意味を自覚する、③諸科学・学問体系における自己の専門の位置を理解する、④諸科学・学問の方法を理解し、普遍的な学研態度を養う、⑤専門教育との有機的な結びつきの下に、分析力や思考力を高め、適正な批判力や判断力を養うことを目標としている。

そのため、とくに教養科目では、授業科目を5分野に分けて、すべての学生が自己の専門領域や狭い関心に固執しないで、現代の諸科学を広く学ぶことができるように指導している。

(教育課程の構成)



学部・大学院等

法 文 学 部 人文社会科学研究科



法文学部は、昭和24年鹿児島大学の発足に伴い、第七高等学校を母体として設置された「文理学部」を改組し、昭和40年4月から法学科、経済学科及び文学科の3学科をもって発足した。昭和54年4月の改組により文学科は人文学科に、平成9年4月の改組により、法学科は法政策学科に、経済学科は経済情報学科になった。また、昭和54年4月、法学研究科（修士課程）法学専攻が設置され、昭和61年4月には人文科学研究科（修士課程）文化基礎論専攻、地域文化論専攻が設置された。なお、平成10年4月には、法学研究科と人文科学研究科を発展的に解消し、人文社会科学研究科（修士課程）を設置し、法学、経済社会システム、人間環境文化論、国際総合文化論の4専攻を設け、更に平成14年4月には臨床心理学専攻（独立専攻）を新設し、5専攻となった。法学専攻、経済社会システム専攻及び臨床心理学専攻では社会人学生を受け入れている。

また、平成14年4月から串木野市にサテライト教室を開設し、実践的なプロジェクト型授業を提供している。

創設以来本学部は、南九州における人文・社会科学に関する教育研究の中心として官界、産業界及び教育界に数多くの人材を送り出してきた。3学科に共通して言えることは、それぞれの専門的知識の修得に基づいた人間形成を目標としたカリキュラムの編成が行われていることである。ことに、平成9年4月の改組により、3学科ともに授業内容を充実し、新しい学問・研究・教育体系による情報化、国際化などの地域社会の変化に対応できる人材育成を目標としている。



●サテライト教室における授業風景

学 科	講 座
法 政 策 学 科	政策科学、市民法、法交渉
経 済 情 報 学 科	経済システム、経営情報、地域計画、国際協力
人 文 学 科	人間科学、地域環境、日本・アジア総合文化、ヨーロッパ・アメリカ総合文化

研 究 科	課 程	専 攻
人文社会科学研究科	修 士	法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻、臨床心理学専攻

教育学部

教育学研究科



教育学部は、明治の小学校授業講習所・師範学校から引き続き、国民の知的水準の向上と文化の発展に責任感と使命感を持ち積極的に寄与できる教員の養成を目指し、長年にわたって多くの有為な人材を世に送り、鹿児島県教育界はもとより広く各界に貢献してきた。

平成6年4月から大学院教育学研究科（修士課程）が開設され、教育研究や教員養成の機能をさらに高めるとともに、現職教員の同研究科受入により、現職教員の資質の向上と学部学生等との相互啓発を可能にしている。また、さらに平成13年4月より大学院は昼夜開講制度を実施し、より受講し易い体制を整えている。

現代社会の急激な変化や児童生徒の問題行動の多発等により、新しい時代の指導者の養成と学校における諸問題を的確に解決できる資質を備えた教員の養成が強く求められており、教育学部は、これらの社会的要請に応えて、平成9年4月から教員養成に関わる課程を「学校教育教員養成課程」、「養護学校教員養成課程」の二課程に再編、整備するとともに、カリキュラム及び履修方法の全般的な改革を行った。同時に生涯教育が重視されるようになった新しい時代に対応するために、教育学部の特徴を生かしながら広く社会教育の分野などで活躍できる指導者の養成を目指し「生涯教育総合課程」を開設した。

教育学部には、附属の教育実践総合センター・4附属学校園（小学校・中学校・養護学校・幼稚園）及び、寺山自然教育研究施設があり、実践的研究を深めるとともに学生の実習の指導に当たっている。



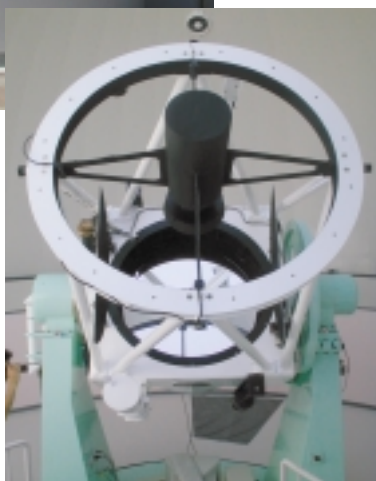
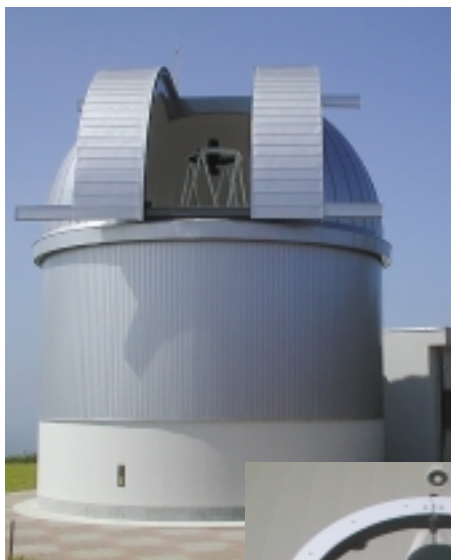
●絵画の授業風景

課 程 等	講 座 等
学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術教育、家政教育、英語教育、教育学、心理学
養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	障害児教育
生涯教育総合課程	地域社会教育、国際理解教育、健康教育
附属教育研究施設	小学校、中学校、養護学校、幼稚園、教育実践総合センター

研 究 科	課 程	専 攻
教 育 学 研 究 科	修 士	学校教育専攻、教科教育専攻

理 学 部

理工学研究科



●光赤外線望遠鏡

理学部は昭和40年に第七高等学校を前身とする文理学部の改組拡充により発足し、昭和52年には大学院理学研究科が、さらに平成3年には附属南西島弧地震火山観測所が設置された。そして平成9年4月に、それまでの5学科（数学、物理、化学、地学、生物）が改組され、数理情報科学、物理科学、生命化学、地球環境科学の4学科に統合再編成され数理・情報・物理・宇宙・化学・生命・地球・環境の8教育コースを設けた。

さらに、平成10年4月には、大学院理学研究科を工学研究科と統合し、理工学研究科が設置され、理系の博士前期課程は数理情報科学、物理科学、生命化学、地球環境科学の4専攻に改組され、博士後期課程としては生命物質システム専攻が新設された。

平成13年4月に宇宙開発事業団、国立天文台との連携により「連携大学院」が設置された。連携する研究機関が所有するVERA望遠鏡などの研究施設や最新の観測データを利用することができ、またこれらの研究機関の研究者から指導を受けながら、宇宙環境あるいは銀河の構造などの分野の学習や研究を進めることができる。

本学部は、南九州地区における唯一の理学部として、教育研究を進めるとともに、南九州の多様な自然環境に関連した研究を通じて、地域社会とも密接な関係を持ち、その発展に貢献している。本学部における教育は、個々の専門分野での深い知識を与えるだけでなく、広く科学的な考えを身につけ、高度化した現代社会の多様な要求に柔軟に応えることのできる人材を育成することを目標にし、21世紀を迎えて新たな展開を目指している。



●野外実習風景

学 科 等	講 座 等
数理情報科学科	数理構造、現象数理、情報数理
物理科学科	物性理論、固体物理、宇宙情報
生命化学科	分子機能化学、有機生化学、生命機能
地球環境科学科	地質科学、島弧火山、環境解析、多様性生物学
附属教育研究施設	南西島弧地震火山観測所

研 究 科	課 程	専 攻	
理工学研究科	博士前期	工学系	機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻、応用化学工学専攻、海洋土木工学専攻、情報工学専攻、生体工学専攻、ナノ構造先端材料工学専攻
		理学系	数理情報科学専攻、物理科学専攻、生命化学専攻、地球環境科学専攻
	博士後期	工学系	物質生産工学専攻、システム情報工学専攻、ナノ構造先端材料工学専攻
		理学系	生命物質システム専攻

医 学 部

医学研究科



●病理学実習

学 科 等		講 座 等
医 学 科		解剖学第一、解剖学第二、生理学第一、生理学第二、生化学第一、生化学第二、薬理学、病理学第一、病理学第二、細菌学、ウイルス学、衛生学、公衆衛生学、離島医療学、医動物学、法医学、内科学第一、内科学第二、内科学第三、リハビリテーション医学、精神神経医学、小児科学、外科学第一、外科学第二、脳神経外科学、整形外科、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、産科学婦人科学、麻酔・蘇生学、臨床検査医学、小児外科学、医療情報管理学、医療総合科学
保健学科	看護学専攻	総合基礎看護学、臨床看護学、母性・小児看護学、地域看護・看護情報学
	理学療法学専攻	基礎理学療法学、臨床理学療法学
	作業療法学専攻	基礎作業療法学、臨床作業療法学
附 属 教 育 研 究 施 設		附属病院：19診療科710床（リハビリテーション科（霧島リハビリテーションセンター）50床含む） 腫瘍研究施設 難治性ウイルス疾患研究センター
研 究 科		専 攻
医 学 研 究 科		博士 生理系専攻、病理系専攻、社会医学系専攻、内科系専攻、外科系専攻

医学部の前身は、明治2年に設立された英国式の医学校の島津藩医学校である。初代の校長であったウィリアム・ウイリス博士は、鹿児島に西洋医学を紹介し、この学校で多くの日本人生徒の教育に努めた。

母体となる県立鹿児島医学専門学校は、昭和18年に開校し、その後、昭和22年に県立鹿児島医科大学、昭和27年に鹿児島県立大学医学部、昭和30年に国立移管され鹿児島大学医学部と変遷をたどった。

また、昭和49年に鹿児島市山下町の旧七高跡地から桜島を臨む高台の桜ヶ丘に移転し、現在に至っている。

本学部は、医学科の基礎系16、臨床系21の37講座、保健学科の3専攻（8講座）、3附属施設及び事務部で構成されている。中でも平成5年に設置された難治性ウイルス疾患研究センターは、南九州に多い難治性疾患についてヒトレトロウイルス研究分野、臓器癌ウイルス研究分野、分子病理・遺伝子疫学研究分野の三分野における基礎・臨床両面で世界的な研究成果を挙げている。

平成12年10月からは、大学卒業者を第2年次後期に編入学させる学士編入学制度がスタートした。

平成12年度からは、自ら問題を発見し、その解決方法を見いだすための一つの授業方法として、「チュートリアル教育」を3、4年生を対象に24の授業科目で、15室を使用して実施している。

平成13年4月には、日本でもまた、世界でも例を見ない、離島の社会、文化、歴史の特性を踏まえたプライマリーケア（救急医療を含む）、高齢者医療、風土病への医療等を有機的に関連させる包括医療を実践的に教育・研究する「離島医療学講座」を設置した。

保健学科は、優れた医療技術者の育成を目指して、平成10年10月に設置され、平成11年4月から学生の受入れを開始した。

なお、平成13年度からは、短期大学等から3年次への編入学の制度を導入した。

また、大学院医学研究科は、昭和34年に設置され、生理系・病理系・社会医学系・内科系・外科系の5専攻が置かれている。さらに、平成11年度から秋季（10月）入学制度及び昼夜開講の社会人入学制度を導入し、地域医療や医学関連分野で活躍している社会人に門戸を広げた。



●保健学科実習

医学部附属病院



医学部附属病院の前身である島津藩病院は、明治2年に設立された。その後、県立鹿児島医学専門学校附属病院、県立鹿児島大学医学部附属病院を経て、昭和33年に国立移管され、鹿児島大学医学部附属病院と改称した。また、昭和63年4月に霧島分院を廃止して、当地の豊富な温泉を利用した脳卒中片マヒや高次脳機能障害リハビリテーション、骨関節疾患の運動療法及び物理療法を主として行う霧島リハビリテーションセンターを設置した。

本院は、医学教育・研究実践の場であると同時に、地域における中核的医療機関としての機能を果たしている。

現在、19の診療科、17の中央診療施設等、卒後臨床研修センター、クオリティマネジメント室、治験管理センター、薬剤部及び看護部で構成されており、特定機能病院として、重症・難病患者の診療、高度先進医療、末期医療への取り組み及び高齢化社会に対応した医療体制の確立に向けて、積極的に取り組んでいる。特に、全診療科出動方式による救急医療においては、確実に成果をあげている。



●医員（研修医）採用者ガイダンスにおける心肺蘇生演習



●手術風景

（平成13年度）

診療科名	患者数		病床数	診療科名	患者数		病床数
	入院	外来			入院	外来	
第一内科	18,421	20,915	50	泌尿器科	8,674	8,813	29
第二内科	19,961	18,614	55	眼科	9,086	20,806	29
第三内科	15,245	15,753	42	耳鼻咽喉科	11,323	14,089	34
リハビリテーション科	17,258	11,024	50	放射線科	8,016	6,296	23
神経科精神科	13,060	13,801	45	産科婦人科	15,950	14,715	48
小児科	13,802	13,651	40	麻酔科蘇生科	728	4,142	3
第一外科	17,806	8,563	51	小児外科	4,340	3,622	9
第二外科	17,533	8,069	52	心身医療科	1,932	9,700	5
脳神経外科	8,239	6,341	20	共用	(8,050)	0	43
整形外科	18,254	13,919	50	放射線治療病室	(118)	0	3
皮膚科	9,073	14,891	29	計	228,701	227,724	710

（注）（ ）は再掲

歯 学 部

歯学研究科



歯学部は、沖縄を含む南九州全域における歯科医学の教育、研究の中核的役割を果たすべく、昭和52年10月に設置された。

歯科医学は口腔諸器官の構造と機能を正常に維持することによって、人間の健康を守る学問であり、本学部では、う蝕、歯周疾患、咬合異常、腫瘍、外傷、形成不全など正常な口腔機能とそれを損なう原因と予防法を総合的に追求し、その対策を研究するとともに、歯科医学を通じて社会の発展に十分に貢献しうる人材を育成することを目標にしている。

教育においては、人間形成に資するための共通教育科目を学習させることにも力を入れるとともに、歯学概論や社会歯科学をはじめ内科学、外科学など医学全般についても重視することとし、医学的学問を基礎とした歯科医学教育を目指している。また、独特な教育制度として、学生が講座の実験などに参加する選択科目制度を設け、学生が独自の個性と創造力を延ばすことができるよう配慮している。

大学院歯学研究科（博士課程）においては、自立して研究活動を行うに必要な能力と学識を修得させ、歯科医学の研究、教育の指導的人材を育成することを目標としている。また、平成11年度より昼夜開講制度を取り入れるとともに、博士（歯学）に加えて、博士（学術）の学位の授与も行えるようになった。



●授業風景

学 科 等	講 座 等
歯 学 科	口腔解剖学（１）、口腔解剖学（２）、口腔生理学、口腔生化学、口腔病理学、口腔細菌学、歯科薬理学、歯科理工学、歯科基礎科学、予防歯科学、歯科保存学（１）、歯科保存学（２）、歯科補綴学（１）、歯科補綴学（２）、口腔外科学（１）、口腔外科学（２）、歯科矯正学、小児歯科学、歯科放射線学
附属教育研究施設	附属病院（11診療科（歯科麻酔科を含む）、40床）

（注）１．講座数

大講座制をとり、19講座相当（基礎 9講座相当、臨床 10講座相当）

２．大講座については、講座相当として（１）、（２）で記入した。

研 究 科	課 程	専 攻
歯 学 研 究 科	博 士	歯学専攻

歯学部附属病院



歯学部附属病院は、南九州における唯一の歯科の教育研究病院として昭和55年に開院し、歯科医療の発展と地域住民の口腔保健の向上に貢献してきた。現在、11診療科と一般歯科総合診療部、特殊歯科総合診療部、手術室、病室（40床）、リハビリテーション室などの中央診療施設を備え、一般的な歯科診療から高度先進医療までの幅広い医療を提供して地域の中核病院としての役割を果たしている。また、病院の全機能を通じて歯学部学生の臨床教育や歯科医師の卒後研修を行うのみならず、県下の歯科衛生士学校生や看護学校生の受託実習、研修登録医の生涯研修等も引き受けて、時代と地域の要請に応えている。

一方では、開院以来、鹿児島県と連携し22年間にわたり毎年県内の無歯科医地区の離島に対して、定期的に巡回歯科診療団を派遣してきた。その結果、乳幼児や学童生徒の齲蝕は激減し、成人島民の口腔の健康も著しく改善をみるなど、その活動は離島住民の歯科保健医療に大きく寄与している。



●診療風景

(平成13年度)

診療科名	患者数		病床数	診療科名	患者数		病床数
	入院	外来			入院	外来	
予防歯科	0	6,994	共通	矯正科	0	8,534	共通
保存科	0	10,430		小児歯科	66	8,903	
歯周病治療科	0	15,326		歯科放射線科	0	420	
第一補綴科	0	11,193		歯科麻酔科	2	1,701	
第二補綴科	0	11,873		特殊歯科総合診療部	0	739	
第一口腔外科	5,201	9,437		一般歯科総合診療部	0	3,551	
第二口腔外科	6,734	8,809		計	12,003	97,910	
							40

工 学 部

理工学研究科



●情報ネットワークの基礎実験

昭和24年4月鹿児島県立大学の発足に伴い、鹿児島県立工業専門学校を母体として工学部が設置され、同30年県立から国立移管され鹿児島大学工学部となった。創立時は4学科であったが、設置・改組を経て7学科となった。また、昭和43年4月には大学院工学研究科（修士課程）が設置されたが、平成6年4月博士前期課程（6専攻）として改組し、博士後期課程として物質生産工学専攻、システム情報工学専攻が設置された。さらに、平成10年4月には、大学院工学研究科と理学研究科とを統合し、理工学研究科が設置され、工学系の博士前期課程に6専攻、博士後期課程に2専攻が置かれた。平成13年4月には博士前期課程に生体工学専攻が平成14年4月には、博士前期課程、博士後期課程に独立専攻として、機械的エネルギー、分子構造、化学反応等で発現する様々な機能をナノスケールで融合・制御し、次世代機能材料の開発とその基本生成プロセス技術を可能とする教育・研究組織としてのナノ構造先端材料工学専攻が新設された。

工学部は工学を支える基礎研究の中核として、また、国際的視野を持った技術者の養成機関として果たすべき役割は極めて大きく、現代社会の多様化した要請に応じるには、新しい分野の開拓が必要である。

このような新しい分野を開拓すべく広い視野と問題発見及び解決能力のある柔軟な頭脳をもつ研究者・技術者の養成を目指している。

また、これまで以上に国際的に通用する技術者の育成を目指して、教育課程の見直し等を行い、J A B E E（日本技術者教育認定機構）への認定に向けての取り組みも行われている。

大学院は新しい分野の開拓とそれを担う研究者・技術者の養成に適した横断的な学問分野で構成されている。また、特別選抜の制度を設け指導方法などを工夫することにより、社会人技術者を積極的に受け入れる体制を整えている。

学 科	講 座	
機 械 工 学 科	設計生産システム工学、エネルギーシステム工学	
電 気 電 子 工 学 科	電子物性デバイス工学、電気エネルギー工学、通信システム工学	
建 築 学 科	建築構造構成学、居住環境構成学	
応用化学工学科	分子工学、機能材料工学、化学システム工学	
海洋土木工学科	環境システム工学、建設システム工学	
情 報 工 学 科	知能情報工学、情報システム工学	
生 体 工 学 科	生体機能材料、生体電子工学	
	京セラ経営学（寄附講座）	

研 究 科	課 程	専 攻	
理工学研究科	博士前期	工学系	機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻、応用化学工学専攻、海洋土木工学専攻、情報工学専攻、生体工学専攻、ナノ構造先端材料工学専攻
		理学系	数理情報科学専攻、物理科学専攻、生命化学専攻、地球環境科学専攻
	博士後期	工学系	物質生産工学専攻、システム情報工学専攻、ナノ構造先端材料工学専攻
		理学系	生命物質システム専攻

農 学 部

農学研究科



農学部は明治41年開設の国立鹿児島高等農林学校に始まり、昭和19年4月鹿児島農林専門学校と改称、昭和24年鹿児島大学農学部となった。当初の学部組織は農学科、林学科、蚕糸学科、農芸化学科、獣医学科、総合農学科の6学科であったが、その後数回の改組が行われ、現在は生物生産学科、生物資源化学科、生物環境学科、獣医学科の4学科構成となっている。さらに学部の上には、修士課程（農学研究科）及び博士課程（連合農学研究科、連合獣医学研究科）が整備され、教育と研究の充実を図り、多様化する社会のニーズや国際化時代に対応できる広い視野と、より高度な専門的知識と創造力を身につけた人材の養成を目指している。本学部は桜島を望む恵まれた自然環境のもとで、衣食住の生活物資の持続的生産管理、生物の持つ生命機能を活かした人の健康の増進、人と自然との調和をはかり豊かな緑と潤いのある生活環境づくり、並びに高度の技術を活かした動物の疾病の予防と治療など、地域との連携をはかりながら、それぞれの分野で幅広い教育と研究を行っている。最近では、日本でも発症が確認されている牛海線状脳症（略称BSE）について、農学部が中心となって「牛海線状脳症対策プロジェクト」を設置し、病気発症の仕組みの解明、生体診断法の確立、肉骨粉など飼料の安全性確保などについても研究を進めている。



●農村調査実習における韓国ソウル市郊外の農協見学

学 科 等	講 座 等
生 物 生 産 学 科	作物生産学、園芸生産学、病虫害制御学、家畜生産学、農業経営経済学
生物資源化学科	生命機能化学、食品機能化学、食糧生産化学
生 物 環 境 学 科	森林管理学、地域資源環境学、農林工学、生産環境工学
獣 医 学 科	家畜解剖学、家畜生理学、家畜薬理学、家畜病理学、家畜微生物学、獣医公衆衛生学、家畜内科学、家畜外科学、家畜臨床繁殖学、産業動物獣医学
附属教育研究施設	農場、演習林、家畜病院

（注）獣医学科は学科目で示す。

研 究 科	課 程	専 攻
農 学 研 究 科	修 士	生物生産学、生物資源化学、生物環境学

水産学部

水産学研究科 水産専攻科



●遠洋航海実習に出航するかごしま丸

水産学部は、本土最南端に位置する特徴を生かし、亜熱帯的特徴を持つ南西諸島を含む沿岸域を舞台とした地域社会との連携と東南アジア域を中心とした低緯度諸国の水産業を対象としたグローバルな課題を軸に、総合科学としての水産学教育・研究を推進している。

学部では、水産学の基礎的知識の修得に重点を置いた教育が行われており、水産学科（水産総合コース、水産環境コース、水産資源コース）と水産教員養成課程の1学科、1課程からなっている。水産学科においては、学生は教育コースにおいて専門分野を選択し、最終学年では下記の5大講座に所属し、卒業研究に従事し、学部教育の総仕上げを行うと同時に、より高度な教育を受けるための素地を養うことを目標としている。水産教員養成課程においては、水産学科のカリキュラムに加え、水産高校教員免許取得のためのカリキュラムが組み合わされ、教員としての学識と豊かな人間性をもった人材養成を目標としている。本学部の特徴として、附属教育研究施設を活用した乗船実習等といった実地で学理・技術を修得するカリキュラムも多く盛り込まれている。

大学院水産学研究科（修士課程）では、今後ますます高度化していく水産分野に従事する高度な専門知識を有した技術者を養成することを目的としている。また、将来研究者としてより高度な技術者を目指し、博士（水産学）の学位取得を望む者には、鹿児島大学大学院連合農学研究科がある。

水産専攻科（遠洋漁業専攻）は、学部での教育を基礎に海上での高度技術者を養成するための1年課程の教育組織であり、6ヶ月の乗船実習カリキュラムが組み入れられている。本課程を修了すると三級海技士（航海）の国家試験受験の際、学科試験が免除される特典がある。

また、近年の海洋環境（特に沿岸海域）の破壊によって資源環境が危機的状況になりつつある中で、食糧生産の確保及び地球環境の保全といった時代の要請に応えるために、平成12年度に附属海洋資源環境教育研究センター（「生物多様性」「環境保全」「開発管理」の3分野）が設置され、当該分野における人材育成、研究成果の地域社会への還元及び国際貢献を図ることとしている。

学 科 等	講 座 等
水 産 学 科	環境情報科学、漁業基礎工学、海洋社会科学、資源育成科学、資源利用科学
水産教員養成課程	
附属教育研究施設	附属練習船かごしま丸（1,297トン）
	附属練習船敬天丸（860トン）
	附属海洋資源環境教育研究センター
	実習船南星丸（83トン）、資源利用科学実習棟、回流水槽実験室、鴨池海洋生産実験室

研 究 科	課 程	専 攻	専 攻 科	専 攻
水 産 学 研 究 科	修 士	水 産 学 専 攻	水 産 専 攻 科	遠 洋 漁 業 専 攻

大学院連合農学研究科



●共通セミナー（一般）風景

大学院連合農学研究科は、本学を設置大学とし、佐賀大学と宮崎大学を参加大学とする後期3年の独立研究科（博士課程）として昭和63年4月に設置された。平成4年4月には新たに琉球大学の参加が認められ、4大学5研究科の修士課程と附属施設を母体とする体制となった。本研究科は、4大学が連合して共通の博士課程の教育研究を行うという全く新しい制度として発足したものであるが、このことによって各構成大学の教官が密接に関連を持つようになり、大学の枠を越えた、かつ専門領域を越えた協力関係が可能になっている。また、本研究科は、九州・沖縄地区の食糧生産基地としての重要性に立脚し、その専攻に、他の地区の連合農学研究科にはない水産学系専攻を設けていることが大きな特色となっており、農学及び水産学に関する幅広い教育研究を行っている。学生の指導体制については、学生1人について、主指導教官1人と副指導教官2人が研究指導に当たるなど、極めて効率的なものとなっている。また、単位制の授業は行わないが、広く農学及び水産学に関する知識を修得させるとともに、自己の専門分野に深い関連のある分野の知識を修得させるために共通セミナー（一般及び特別）を開講し、その修得を学位申請の必須条件にしている。

課 程	専 攻	連 合 講 座
博 士	生 物 生 産 科 学	植物生産学、動物生産学、農林資源・経営学、熱帯資源生物学
	生物資源利用科学	応用生物化学、資源利用化学、生物機能開発学
	生物環境保全科学	生物環境保護学、生物生産工学
	水 産 資 源 科 学	海洋生産環境学、水産資源利用学

（注）連合農学研究科は4大学（佐賀、宮崎、鹿児島、琉球）で構成。

山口大学大学院連合獣医学研究科



連合獣医学研究科は、平成2年4月に鹿児島大学、鳥取大学、山口大学及び宮崎大学が連合して設置された修業年限4年の博士課程である。基幹校は山口大学で、四大学が連合して共同研究や学術研究などを通じて幅広い教育研究が行われている。

本研究科は、1専攻（獣医学専攻）で、3連合講座から成り、学生の入学定員は12名であるが、学術研究の高度化、国際化及び社会人の再教育などの社会的ニーズに対応するために、獣医学士のみならず、他の分野の卒業生、外国人及び社会人を積極的に受け入れ、創造性豊かな研究者や高度の専門的知識と能力を有する人材を養成している。学生1人につき、主指導教官1人、副指導教官2人が指導に当たるが、他大学の教官並びに学生相互の討論を通して、自己を高めると同時に相互の親睦と連帯感の形成に役立てている。

課 程	専 攻	連 合 講 座
博 士	獣 医 学	基礎獣医学、病態・予防獣医学、臨床獣医学

（注）山口大学大学院連合獣医学研究科は4大学（鳥取、山口、宮崎、鹿児島）で構成。

附属図書館

附属図書館は、中央図書館（郡元地区）、桜ヶ丘分館（桜ヶ丘地区）及び水産学部分館（下荒田地区）の3館で組織されており、教育・研究に必要な図書館資料を広い分野にわたり収集し利用に供している。利用者は、中央図書館及び二つの分館を共通に利用できる。

利用者サービスとしては、閲覧・貸出をはじめ、所在調査・事項調査等のレファレンス・サービス、学内外の図書館間相互利用による文献複写・現物貸借、利用指導等を行っている。

さらに、キャンパス情報ネットワークやインターネットを駆使した蔵書検索、文献情報検索、電子ジャーナルの導入等、学内における学術情報のポータルサイトの役割を果たすため電子図書館の整備充実に努めている。

中央図書館は、国立大学の9館に設置してある「外国雑誌センター館」の一つとして、農学系の雑誌を収集し、全国共同利用機関としてのサービスを行っている。

一般市民等の生涯学習を支援するために広く公開し、放送大学の学生をはじめ、多くの市民が利用している。平成11年度から図書館内に配置している図書の貸出サービスも行っている。

島津久光及び玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書を所蔵しており、これらの貴重書は、大学公開の一環として平成11年度から毎年、図書館内と県内各地の公共施設で公開展示している。

●開館時間

区 分	授 業 期			休 業 期・3月		
	月～金	土	日	月～金	土	日
中央図書館	9:00 ～20:00	10:00 ～17:00	10:00 ～17:00	9:00 ～17:00	閉 館 (※3月を除く)	閉 館 (※3月を除く)
桜ヶ丘分館	9:00 ～21:00	10:00 ～18:00	10:00 ～18:00	9:00 ～21:00	10:00 ～18:00	10:00 ～18:00
水産学部分館	9:00 ～20:00	10:00 ～17:00	閉 館	9:00 ～17:00	10:00 ～17:00	閉 館

※中央図書館は3月の土・日については、10:00～17:00の開館



●中央図書館

●休館日

- ・「国民の祝日に関する法律」に規定する休日及び振替休日
- ・鹿児島大学記念日（11月15日）
- ・年末・年始（12月27日～1月5日）
- ・その他、臨時に休館する場合があります。

●蔵書数

図書(冊)

(平成14年5月1日現在)

区 分		総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計
和 漢 書	中央図書館	67,925	44,517	76,407	207,287	115,650	72,183	56,737	30,086	27,762	72,329	770,883
	桜ヶ丘分館	1,039	1,807	743	5,628	91,889	1,172	334	670	1,929	1,462	106,673
	水産学部分館	2,295	558	1,962	13,599	14,900	9,424	15,919	1,084	1,366	773	61,880
	小 計	71,259	46,882	79,112	226,514	222,439	82,779	72,990	31,840	31,057	74,564	939,436
洋 書	中央図書館	16,585	19,567	17,503	53,801	84,923	20,148	20,597	4,538	13,487	33,986	285,135
	桜ヶ丘分館	943	328	107	678	77,782	101	77	85	468	469	81,038
	水産学部分館	772	135	323	1,062	6,143	2,857	4,610	302	360	87	16,651
	小 計	18,300	20,030	17,933	55,541	168,848	23,106	25,284	4,925	14,315	34,542	382,824
合 計		89,559	66,912	97,045	282,055	391,287	105,885	98,274	36,765	45,372	109,106	1,322,260

雑誌(種類数)

区 分	和 漢 書	洋 書	計
中央図書館	11,169	5,593	16,762
桜ヶ丘分館	3,048	2,275	5,323
水産学部分館	1,813	811	2,624
合 計	16,030	8,679	24,709

●中央図書館 (地上5階地下2階建 延床面積 12,697㎡)

(平成14年5月1日現在)

区分	室名及びコーナー	内 容	区分	室名及びコーナー	内 容	
地下1階	開 架 書 庫	新聞、洋雑誌 (1979年以前)、 和雑誌、政府刊行物等、コピー機(公費用)、 OPAC用端末1台	3階	固 定 書 架 集 密 書 架 参 考 図 書 コーナー 放送大学教材コーナー 郷 土 資 料 コーナー P A C S コーナー 複 写 コーナー ラ ウ ン ジ 研 究 個 室 31 ～ 36 グ ル ープ 学 習 室 31	一般図書 (総記、哲学、歴史、社会科学) 国内大学の紀要 ハンドブック等 放送大学教材 鹿児島関係資料、玉里文庫複製本等 OPAC用端末3台 プリペイドカード式コピー機1台	
地下2階	開 架 書 庫	稀用図書、OPAC用端末1台		4階	固 定 書 架 集 密 書 架 参 考 図 書 コーナー P A C S コーナー 複 写 コーナー ラ ウ ン ジ 研 究 個 室 41 ～ 46 研 究 者 談 話 室	一般図書 (自然科学、技術、産業、芸術、言語、文学) 稀用図書 (洋書)、大型コレクション ハンドブック等 OPAC用端末3台 プリペイドカード式コピー機1台
1階	メインカウンター レファレンスカウンター P A C S コーナー 新聞閲覧コーナー 参考図書コーナー 国際交流コーナー 地形図コーナー 本学関係者著作寄贈図書コーナー A V コーナー 展 示 コーナー 複 写 コーナー カード目録コーナー マルチメディア端末室 リーダープリンタ室 視聴覚・マイクロ資料室 情報検索室	貸出、返却、利用案内等 参考調査、相互貸借受付 OPAC用端末6台 地方紙を含む新聞 参考図書、二次資料、蔵書目録 留学生、国際理解のための図書資料 日本全国の5万分の1の地形図 本学関係者著作及び学内発行紀要等 放送大学、BBC、CNN、ビデオ資料、CD-ROMメディア情報検索 展示ケース2台 カラーコピー機1台(公費用)、プリペイドカード式コピー機1台 書名・著者名目録 教育研究用端末16台 リーダープリンタ2台、リーダー2台、CD-ROM検索 視聴覚・マイクロ資料、テレビデオ2台 オンライン情報検索			5階	A V ホール 貴重書庫 貴重図書閲覧室 特殊資料書庫
2階	固 定 書 架 集 密 書 架 ブラウジングコーナー 新着雑誌コーナー P A C S コーナー 複 写 コーナー 研 究 個 室 グループ学習室21～22	外国雑誌バックナンバー (1980年以降) 同上 一般雑誌、グラビア誌 国内及び外国新着雑誌 OPAC用端末2台 コピー機1台(公費用)、プリペイドカード式コピー機1台 6室 2室 (各定員12名)				

●桜ヶ丘分館 (地上3階建 延床面積 1,980㎡)

区分	室名及びコーナー	内 容
1階	カ ウ ン ター P A C S コーナー 目 録 コーナー 複 写 コーナー 新聞閲覧コーナー 新着雑誌展示室 書庫 (集密書架)	OPAC用端末8台 カラーコピー機1台 (公費用) 新聞 新着雑誌 稀用資料
2階	P A C S コーナー 複 写 コーナー D L S コーナー	教育研究用端末2台、OPAC用端末1台 コピー機1台 (公費用)、プリペイドカード式コピー機1台 CD・DVD視聴装置 参考図書、二次資料 カレント雑誌 欧文雑誌バックナンバー
3階	P A C S コーナー 複 写 コーナー ビ デ オ コーナー	教育研究用端末2台、OPAC用端末1台 プリペイドカード式コピー機1台 図書 (和書、洋書) 和文雑誌バックナンバー ビデオ資料2台

●水産学部分館 (地上2階建 延床面積 849㎡)

区分	室名及びコーナー	内 容
1階	カ ウ ン ター P A C S コーナー 新聞閲覧・新着雑誌コーナー 複 写 コーナー ロ ッ カ ー 書 庫	OPAC用端末3台、CD・DVD視聴装置 新聞・新着雑誌 カラーコピー機1台 (公費用) 稀用図書、雑誌
2階	閱 覧 室 P A C S コーナー 視 聴 覚 室 複 写 コーナー	参考図書、単行本、逐次刊行物、修士論文 教育研究用端末7台、OPAC用端末1台 ビデオ資料 国内大学紀要 プリペイドカード式コピー機1台



●レファレンスカウンター



●閲覧風景

学内共同教育研究施設

地域共同研究センター

地域共同研究センターは、本学と地方公共団体や民間企業との相互協力による共同研究等を推進し、本学の教育研究の進展に資するとともに地域社会における技術開発及び技術教育等の振興に資することを目的として、平成4年4月に設置された。

センターでは、本学の研究シーズと企業の技術ニーズのマッチングを行うとともに、各種セミナーや技術研修等を行っており、産学官連携の窓口として、重要な役割を担っている。



総合情報処理センター

総合情報処理センターは、本学のコンピュータシステム及びキャンパス情報ネットワークを管理運用し、これらを教育研究等本学の情報処理のための利用に供することを目的として、平成7年4月に設置された。

センターは、学内の情報処理、及び情報伝達の中核的な組織として、教育研究を支援し、本学の情報化の推進に寄与している。



多島圏研究センター

多島圏研究センターは、アジア太平洋の多島域について、学際的な調査研究を実施して学術の国際交流を図り、これらの地域の福祉発展に寄与することを目的として、平成10年4月に設置された。

センターでは、①人と自然の相互作用、②地形・生物伝播等の自然地理、③社会・文化変容と自然環境、④社会医学的環境、⑤国際社会の島嶼国家の役割、の5つの課題を設定し、学内兼務教官や学外協力者と連携協力しながら、フィールドワークを重視した研究活動に取り組んでいる。



アイソトープ総合センター

アイソトープ総合センターは、本学の放射性同位元素（R I）を利用する教育研究に資するとともに、安全管理に関し中心的な役割を担うことを目的として、平成11年4月に設置された。

センターは、学内の各R I施設と連携して、①R Iの安全管理、②R I取扱者に対する教育訓練、③最新のR I実験方法等の情報収集・提供など、R Iの利用に関する総合的な業務を行うこととしているが、センター施設が未整備なため早急な施設整備が望まれている。

留学生センター

留学生センターは、外国人留学生及び海外留学を希望する本学の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的として、平成12年4月に設置された。

この目的のために、外国人留学生に対する、日本語予備教育、日本語及び日本事情に関する教育、修学上及び生活上の指導助言、さらに外国人留学生と地域社会との交流の推進や、海外留学を希望する学生への情報提供及び指導助言等の業務を行っている。

総合研究博物館

総合研究博物館は、学内の貴重な学術資料を一元的に整理・管理・展示公開して研究・教育に効果的に利用し、さらに広く一般社会へ学術標本に関する情報を発信する役割を担うことを目的として平成13年4月に設置された。

博物館では、

- 1) 学術資料を活用した教育環境の実現
 - 2) 学際的分野の要請に応える標本情報の提供
 - 3) 大学と地域との連携を強化する公開展示、公開講座、講演会の開催
 - 4) 国際的な学術標本の相互利用・交換の促進
- を実現するために学内外の協力者とともに取り組んでいる。



●鹿児島大学の標本の一例

機器分析センター

機器分析センターは、各学部に分散して運用してきた共用性の高い大型機器を集約し、組織的・体系的に研究支援、保守管理を行うことを目的として、平成13年4月に設置された。

センターには、現在19の機器装置が登録されており、研究者が質の高い研究を行い、その成果を社会に還元していくことを支援し、本学の研究者だけでなく、地域に開かれたセンターとして学外の研究者との積極的な交流も図り、共同研究等の支援も行う。

生命科学資源開発研究センター

生命科学資源開発研究センターは生命科学分野の教育研究の総合推進を図ることを目的として、平成14年4月に設置された。センターは1) 遺伝子研究分野、2) 実験動物研究分野、3) 医用ミニブタ研究分野の3研究分野から構成されている。

- 1) 遺伝子研究分野は平成8年に設置が認められた遺伝子実験施設が前身である。施設は郡元キャンパスにあり、物理的封じ込めP3レベルまでの実験室や放射性同位元素(RI)を使用できる各種実験室が整備されている。進展著しい遺伝子に関連する分野の教育研究の支援に取り組み、本学におけるバイオサイエンスの発展に貢献している。
- 2) 実験動物研究分野は、昭和50年4月に開設された医学部附属動物実験施設が前身で、施設は桜ヶ丘キャンパスにある。SPF動物、遺伝子改変動物、一般動物等の飼育室、手術室およびエックス線室を設置している。動物福祉に配慮した適正な動物実験の遂行のため、実験動物及び動物実験に関する教育研究に取り組んでいる。
- 3) 医用ミニブタ研究分野は、臓器移植、ヒトの疾病予防・治療をはじめとする様々な生命科学研究のための医用ミニブタ(異種臓器移植ドナーミニブタ及び遺伝子改変ミニブタ)の研究開発を目的として、新しく設置された。本学で行われる生命科学研究の推進をはじめ新しい研究領域の発展が期待される研究分野である。



全学共同利用施設

埋蔵文化財調査室

本学の郡元キャンパスと桜ヶ丘キャンパスは、旧石器時代から近代までの長期にわたる遺跡である。特に、郡元キャンパスは弥生時代の水田関係の遺構と古墳時代の大規模な集落跡、桜ヶ丘キャンパスは縄文時代早期の住居跡と弥生時代中期の集落跡が確認された遺跡として広く知られている。また、入来牧場や学生寮建設地でも縄文時代の遺跡が確認されている。

埋蔵文化財調査室では、このような構内や附属施設に存在する遺跡の発掘を中心とした調査を施設整備事業に即して行い、そこから得られた埋蔵文化財の整理・報告書の作成および研究を行っている。また、その成果は埋蔵文化財調査室年報として刊行している。



●床に炭と赤い顔料が散らばっている古墳時代の居住跡
(総合研究棟建設地)

稲盛会館

会館は本学工学部出身の京セラ(株)名誉会長稲盛和夫氏から科学技術を中心とした知的交流を促進するための場として本学に寄贈されたもので、日本を代表する著名な建築家安藤忠雄氏の設計によるものである。

(1) 利用目的

教育及び學術の交流の場として本学の職員その他関係者の利用に供することにより、本学の教育研究の進展に資するとともに、學術及び文化の向上に寄与することを目的としている。

(2) 施設の概要

会館は①地下1階～地上3階建、②建面積810.40㎡、延面積1,628.85㎡、③ホール、ロビー、ホワイエ及び会議室からなる。

(3) 利用方法等

研究会、国際会議、講演会及び公開講座等に利用でき、利用希望者は事前に使用許可申請書を管理部局の工学部に提出し学長の許可を受ける。



体育施設

施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック、夜間照明あり
競技場	〃	夜間照明あり
野球場	桜ヶ丘地区	
グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	2面、夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	8面
第1体育館	郡元地区	1,121㎡
第2体育館	〃	2,612㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,076㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設(武道場)	桜ヶ丘地区	450㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m (7コース)



厚生施設等

保健管理センター

保健管理センターは、学生の心身の健康の保持増進を目的として昭和47年に設置された。

センターはこの趣旨に沿い、現在、以下の業務を行っている。

- ①定期健康診断 ②特別健康診断並びに臨時健康診断 ③心理相談並びに学生相談 ④日常の一般診療 ⑤健康診断書発行
⑥健康教育活動 ⑦その他

なお、これらの業務には、主として、センター専任の医師、看護師、栄養士等が当たっているが、この他にも、医学部及び同附属病院から、内科、精神神経科、放射線科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の先生方が学医として、また、法文学部、教育学部の心理学の先生方がカウンセラーとしてそれぞれ診療やカウンセリングにあたっている。



診療科目	曜日	時間
内科	月・水・木・金	9～11時 14時～16時
精神神経科	月・水・木・金	9～11時 14時～16時
	水(第2・第4)*	14時～16時(桜ヶ丘分室)
心理相談	木(第1・第3)*	14時～16時
	金(第2・第4)*	14時～16時
眼科	水(第1・第3)*	14時～16時
整形外科	木(第1・第3)*	14時～16時
耳鼻咽喉科	木(第2・第4)*	14時～16時
特別健康診断・臨時健康診断	火	9～11時 14時～16時

(ただし、緊急の場合は、この限りではありません)

定期健康診断実施期間(4～5月)及び春・夏・冬休暇期間中は、心理相談、眼科、整形外科、耳鼻咽喉科及び桜ヶ丘分室の精神科は休診です。

大学会館

大学会館は、学生相互並びに学生と教職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、1号館が昭和47年3月、2・4号館が昭和36年5月、3号館が昭和37年8月に設置された。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日及び12月29日から翌年1月3日までとなっている。



●1号館

建物名称	階別	施設名	用途等
1号館 (1,409m ²)	1	軽食堂	喫茶、食事 (64席)
		理髪室	理髪 (4台)
	2	共用談話室	休憩、談話 (52人)
		音楽鑑賞室	音楽鑑賞 (56人)
		会議室(1・2)	会議、研究会等 (42人・20人)
	3	和室(1～5)	会議及び邦楽、茶道、華道等の練習
			8帖 2室 12帖 2室 45.5帖 1室
2号館 (779m ²)	1	ホール	音楽会、講演会、研究会等 (300人)
		音楽練習室(1・2)	音楽等練習
	2	小集会室	会議、展示会等
3号館 (422m ²)	1	サークル連絡室	サークル活動
		サークル連絡室	サークル活動
4号館 (448m ²)	1	大集会室	音楽会、講演会、映画会、研究会等 (500人)
		厚生センター	書籍、日用品等の購売

課外活動施設

課外活動（サークル）は、大学教育における人間形成の上で必要不可欠であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有している。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する大学会館（1～3号館）以外に、平成14年3月に設置された課外活動共用施設などの課外活動施設がある。課外活動共用施設は、サークル間の交流・連携の場（学生の交流プラザ）としての中庭を囲むようにして、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室及びサークル室等を配置し、文化系、体育系合わせて90サークルが使用している。



●課外活動共用施設

施設名	所在地	備考
課外活動共用施設	郡元地区	文化系・体育系サークル
馬房（厩舎）	郡元地区	馬術
平川艇庫	平川町海岸	ヨット
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター

国際交流会館

国際交流会館は、本学の外国人留学生及び本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資することを目的に1号館が昭和54年4月に2号館が平成6年10月に設置された。

平成14年5月1日現在、20ヶ国63名の外国人留学生、外国人研究者が居住している。



●国際交流会館

(1号館)			(2号館)		
室名	面積(m ²)	室数	室名	面積(m ²)	室数
単身室	12	35室	単身室	12	30室
夫婦室	39	3室	夫婦室	40	6室
家族室	59	2室	家族室	58	4室
主事室	14		補食室	11	4室
事務室	16		洗濯・シャワー室	11	4室
談話室	47		ラウンジコーナー	39	
娯楽室	94		談話コーナー	14	
和室	25		備考：延面積 1,259m ² 建物構造 R 4		
補食室	5～12	4室			
浴室	3～8	4室			
洗濯室	10	4室			
管理人室	52				
倉庫	7				
備考：延面積 1,430m ² 建物構造 RC 4					

食堂



食堂名	延面積	席数	所在地
中央食堂	1,347m ²	520席	統合地区（郡元地区）
郡元南食堂	882m ²	174席	教育学部内（"）
桜ヶ丘会館	417m ²	160席	医学部内（桜ヶ丘地区）
水産学部食堂	350m ²	128席	水産学部内（下荒田地区）

学生寮



区分 棟名	建物	延面積 (m ²)	収容定員 (名)
A棟	鉄筋5階建	1,412	76
B棟	"	1,568	92
C棟 (対岳寮・黒潮寮)	鉄筋2階建	629	64
女子寮 (清明寮)	鉄筋4階建	1,600	81
共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舍	鉄筋5階建	2,696	99
合計		8,222	412

全学合同研究プロジェクト

1. 大地・食・人間の健康を保全する環境革命への試行―鹿児島県をケーススタディとして―（平成9年度～）

本研究プロジェクトは、食糧、健康、地球環境の諸問題を環境保全型農水産業を軸として解決しようとするものである。戦後の食糧不足の時代には、食物の量のみが求められていたために、作物生産に多量の化学肥料と農薬が使用されてきたが、昨今は「食と健康」に対する国民の関心が急速に高まり、残留農薬等による健康への害が問題視されるようになった。

過剰な農薬や化学肥料の施用を抑え、安全で健康な作物をつくるためには、有機質肥料を施用し、地力のある土壌をつくる必要があるが、昨今は地力が低下し、残留農薬等による土壌や作物の汚染が進行している。また、食生活の西欧化により巨大化した畜産業からは膨大な畜産廃棄物が生じ、一方では、沿岸域における種々の高級魚の大量養殖が深刻な海洋汚染を引き起こし、さらに工業分野においても多量の環境汚染物質が廃棄され、人類の生存を脅かしている。特に鹿児島県では、畜産廃棄物による環境汚染や茶畑での過剰施肥が問題になっている。

そこで、鹿児島大学を構成する全8学部を挙げての総合的研究を実施した。内容は、①大地の健康と持続的食糧生産、②食物と健康、③地球環境と人間生活、の3課題について、各課題の研究者が相互に補完し合いながら総合的な研究成果を上げることを目指している。

平成9年度に開始した本研究プロジェクトには、平成10年度以降、学内外の研究者や技術者約140名が約60課題に参加している。地域の問題を解決し、得られた成果を社会へ還元するために、市民向けシンポジウムと研究成果発表会を毎年行っており、平成11年度は地域住民との連携をさらに深めるための企画として、奄美大島で「水問題 in 奄美」、屋久島で「屋久島の森林と水」のミニシンポジウムを、鹿児島市で「合鴨農法ワークショップ」を開催した。また、平成12年度にはワークショップ「畜産における土着微生物の利用」を開催し、学内外から800名を超える研究者、農業者、市民が参加した。平成12年度研究成果報告会においても前年度と同様、全課題の研究成果をパネル展示と口頭で発表し、280名を超える参加者を得て、熱心な討論、研究交流が行われた。本研究プロジェクトでは毎年度研究成果報告書を作成し、学内外に配布して広く活用することを薦めている。

平成13年度はこれまで4年間にわたるプロジェクトの中で成果を上げてきたアイガモ農法や土着菌の活用技術を生かして「網掛川流域環境共生プロジェクト」という名称で1) 農村地域の環境復元を目指す、2) 収穫された安全な農産物の地域流通を促進し、農家の経営と生活の安定を図る、3) 地域の子どもたちが自然環境と農業の大切さを自覚するための次世代教育を目指す、4) NGO カラモジアと連携して、地球規模での環境復元・循環型農業を目指す国際交流・協力を推進することを目的として鹿児島県溝辺町竹子（たかぜ）地区を対象に実施した。

具体的には網掛川最上流の40aの水田にアイガモ農法を導入し、それによる環境への影響調査を実施した。さらに、地域の森林を管理し、水道事業を行っている竹子共正会の活動調査、森林利用調査、高齢者への聞き取り調査などを実施した。環境調査としては水質調査、植物生態調査、動物生態調査、土壌調査、米成分調査などを実施した。

またプロジェクトの推進に当たって現地のステビア米栽培生産組合、溝辺町役場、竹子小学校、日本有機株式会社など産官学民の12団体がプロジェクト委員会を組織して取り組んだことも新しい試みである。鹿児島大学からは22名の研究者が参加した。

プロジェクト現地での収穫祭には800名余の参加者があるなど社会的関心を集めており、地域おこしの役割も担った。

2. 新しい関係性を求めて―コミュニケーションの諸相―（平成10年度～）

本研究プロジェクトは、「メッセージ」「コード」「メディア」の三要素でコミュニケーション行為の基本的構造を把握した第一期（平成10年～平成13年3月）の到達点を踏まえたものである。第二期目は、コミュニケーション不全という現象への具体的な実践的対応、提言を行うため、5つのパートに再編成した。

第1パート「子ども・親・教師のコミュニケーション能力を高める研修プログラムの開発研究」子ども、親、教師が、教育をめぐって生じる深刻な問題状況の解決に向けて、建設的なコミュニケーションを育成するためのトレーニングプログラムを完成させる。

第2パート「小児治療におけるコミュニケーションの重要性の研究」難治性で慢性に経過する患者の治療では、医療関係者や家族・友達（学校）などとの良好なコミュニケーションが重要である。患者と良好なコミュニケーションを形成する工夫、たとえば病棟内のプレイルームの活用方法等を研究し提言する。

第3パート「歯科治療と顔の研究」外科矯正患者における顔の表象様式および自他に対する評価の仕方、社会におけるふるまい方の研究を通して、より質の高いコミュニケーションの実現をめざす。患者の主訴（主観的評価）と医師の見立て（客観的評価）との間に生じるズレの背景にある要因を探索し、患者の生活の質の向上を図る。

第4パート「大学と地域における国際化教育の推進とデジタル化教材の開発・共有の研究」インターネットを介した学術連携システムの本学における構築をめざし、一般利用者を対象にした双方向性学習教材の整備に関する研究を行う。外国語学習教材のデジタル化ならびに高速ネットワークを介した快適な利用環境の実現をめざして、試行的実験を行う。

第5パート「マルチエージェントシステムの開発とその応用に関する研究」自らの価値基準や価値判断に従って自己の行為を自由に選択できるソフトウェアであるエージェントに関しては、自らの力で周囲の状況を認識し、合目的な動作の実行主体となるが、そのようなエージェントが多数共存することによって、エージェント間での複雑な処理を実現することが可能となる。このような高度な知識処理を行うエージェントを開発する。

平成13年度は、県教委等の後援を得た講演会を開催すると共に、報告書（A5判146頁）を作成し、活用を図った。

3. <環境プロジェクト> 開放系／半開放系のごみ処理と地域資源循環型社会の構築に関する研究 (平成11年度～)

本プロジェクトは「エコキャンパス・プログラム」と「屋久島エコタウン・プログラム」の実現をめざした環境プロジェクトである。前者は、教育と研究と言う知的情報生産の場でありながら、教育研究活動の結果とはいえ、開放系である大学から廃棄物(生ごみ、排泄物、使用済み薬品、研究機器の廃品等)を地域にごみとして大量に排出していること、学内環境の向上喚起をめざした研究プログラムである。まず、大学内のごみ処理を可能な限り自己処理を行うことを目途に大学内に発生する生ごみをモデルケースに生ごみ処理機を購入した。平成11、12年度において大学内に存在する問題提起を行うと同時に各種の調査を実施、平成13年度からは4学部学生も調査研究に参加し、人間行動学的調査を含めて学内における各種廃棄物の発生状況調査、生ごみの有効な処理方法を確立するための基礎データを蓄積中である。併せて、平成13年度は鹿児島市内における貴重な唯一の樹木園内すべての樹木調査を実施し、約400種の内、100種の樹木名盤を設置する等、学問の府として相応しい環境を創生するために着々とその成果を生み出している。このプログラムは4学部の研究者だけでなく、3学部学生も積極的に参加した初めてのケースである。

一方、後者は、世界自然遺産に登録された半開放系である屋久島をケースとし、自然と共生できるゼロエミッション構想を取りこみ、地域資源循環型社会システムの展開を目標とするエコタウンプログラムである。屋久島における農／林／水産業の生産体系と生活環境が深くかかわるので、住民との合意形成にもとづく、自然環境に調和したエコタウンの実現化をめざすものである。平成11年度に問題提起、基礎調査、そして平成12年度には有機系廃棄物処理によるエネルギー化のパイロットプラントの創設した。これらの研究成果が実り、平成13～15年度にわたる文部科学省科学技術振興調整費(先導研究等の推進)、課題名「循環型社会システムの屋久島モデルの構築」が採択された。屋久島における住民の生活と自然が共存できる生産システムのあり方を探り、島内で発生する各種廃棄物処理問題を「地域資源問題」と考え、資源循環型社会システムを考慮に入れたエコタウンの構築をめざす研究を推進中である。

このプログラムは本学6学部の研究者だけでなく、国内の3大学を含め約50名の研究者を擁するプログラムに発展した。これらの果実は鹿児島県内の離島だけでなく、日本の離島、世界にも向けて発信すること目標としている。

4. 地域学の創造—新しい鹿児島学— (平成12年度～)

本プロジェクトのテーマは、「地域学の創造—新しい鹿児島学—」である。これまで、日本における地方国立大学は、研究・教育という側面を重視し、人材育成という点から間接的に地域社会との関わりを持ってきたが、直接的に地域貢献に乗り出すことは概して少なかったといえる。それは、例えばアメリカの州立大学がコミュニティの一員として積極的に地域貢献を行ってきたのとは対照的であった。すなわち、日本に於ける地方国立大学は、知的資源の貯蔵庫としての役割を持ちながら、地域への還元という点では不十分な成果しか挙げてこなかった。これは、地域にとっても、地域に生きる大学にとっても不幸なことであった。現在、地方国立大学に対しては、こうした点への取り組みの必要性が社会的に強く求められるようになってきている。鹿児島大学においては、こうした認識に基づき、平成12年度、田中弘允学長の発案に基づき、大学を地域社会再構築の核とすべく、全学プロジェクト「地域学の創造—新しい鹿児島学—」を立ち上げることになった。現在、地域社会は、環境問題、福祉問題、財政問題など様々な地域問題に直面している。大学はその性格上、目前の問題を即座に解決する能力には乏しいと言えるが、その蓄積した知的資源と総合大学としての学際性という可能性、そして利害にとらわれないという立場を十分に活用するならば、中長期的な観点に立って、来るべき環境共生型社会としての地域社会の将来像を構築することは可能である。

このような観点から、学内外の地域研究の各専門家に呼びかけ、環境と共生をキーワードにして全学プロジェクト「地域学の創造—新しい鹿児島学—」を組織した。

全体は、大きく《社会のレベル》《自然のレベル》《文化のレベル》《人間のレベル》に4区分し、14のグループに分けて、総勢134人の研究者が研究を進めている。

社会のレベル：(1) 鹿児島県の環境問題 (2) 鹿児島県の経済と環境 (3) 鹿児島県のマルチメディア環境

自然のレベル：(4) 鹿児島県の自然環境 (5) 鹿児島県の地域農業と食品 (6) 鹿児島県の都市景観と住生活

文化のレベル：(7) 近世薩摩の学術と玉里島津家資料 (8) 鹿児島県の古代と考古学 (9) 鹿児島県の言語と文学

(10) 鹿児島県の国際交流

人間のレベル：(11) 鹿児島県の地域医療 (12) 鹿児島県の精神風土 (13) 鹿児島県の生涯体育・スポーツ (14) 鹿児島県の教育

なお、研究成果は年2回の研究成果発表会(公開発表会)において公表し、研究成果の平易な解説冊子『鹿児島学のプロフィール』1号、2号、3号を刊行している。

5. 離島の豊かな発展のための学際的研究—離島学の構築— (平成12年度～)

離島は国土の保全、海洋資源の利用、自然環境の保全などに極めて重要な役割を果たしている。特に、鹿児島県の離島は、世界遺産に登録された屋久島や、世界遺産の候補になっている奄美大島など、稀少野生生物が棲息している豊かな自然環境に恵まれており、また、特色ある風俗や文化などが残された学術研究の宝庫でもある。その一方で、鹿児島県の離島の大半は、隔絶性の強い外海離島で、しかも台風常襲地帯に位置することから災害を受け易く、本土との交通が途絶し孤立化してしまう場合があるなど、自然的にはもとより、所得格差、過疎、高齢化の進展など、経済的・社会的にも厳しい状況に置かれている。

本研究プロジェクトの目的は、鹿児島県の離島、文化、社会の特性を明らかにし、その特性を生かした学術研究の発展、自然環境

の保全、文化の継承と発展、農林水産業の振興と離島の厳しい条件の改善・解消、教育・福祉・医療の充実を図る総合方策を作成し、政策などを提言することである。さらに、実践的に研究を継続し、離島に豊かなゆとりのある地域社会を築くための方略を明らかにし、これらの成果に基づき、離島の自然と文化、社会の特性と離島の社会発展の基本法則を明らかにする学問「離島学」の体系化を試みることである。

鹿児島大学は、離島との関わりが深く、昭和57年までは医学部附属熱帯医学研究施設が奄美大島における風土病研究・対策の拠点として活動してきた。離島の研究は、その後、南方海域研究センター（現多島圏研究センター）に引継がれた。また、平成13年には医学部に新たに離島医療学講座が開設された。離島についての研究は、これらの研究施設や講座以外にも、多くの学部学科で、個別に行われてきた。本研究プロジェクトは、学部の壁を越えて、地域に立脚する大学として、地域の課題に学際的に取り組み、その成果を鹿児島県の離島へ還元し、更には、世界の離島へ発信することを目指している。

プロジェクトでは、毎年、研究成果報告会を開催するとともに、研究成果報告書を作成し、学内外に配布している。報告書の主要テーマは、平成12年度が、「南西諸島における自然環境の保全と人間活動―奄美の稀少・絶滅危惧植物、他」、「鹿児島県離島の自立的発展の方策について」、平成13年度は、「琉球列島の陸棲脊椎動物相とその起源―古生物学・地質学の視点から」。この報告では、琉球列島の起源を明らかにする多くの古生物学的発見が報告された。

6. 海の砂漠化＝「磯焼け」発生機構の解明（平成13年度～）

海藻群落（藻場）は、魚介類の産卵場所や生育場所として沿岸生態系においては必要不可欠な存在であるが、そのほかにも、陸地から流出した窒素やリンなどの環境汚染物質を吸収し海水を浄化したり、地球温暖化の原因とされる大気中の二酸化炭素を吸収して生物の呼吸に必要な酸素を放出するなど、地球レベルの生態系を支える重要な役割を演じている。しかし、この海藻類が突然枯死・流失し、その後の岩肌が白く変色する「磯焼け」現象が鹿児島をはじめとする日本各地で報告されており、沿岸漁業上はもちろんのこと、海洋環境の問題となっている。

水産学部附属海洋資源環境教育研究センターでは、「海の砂漠化」とも呼ばれるこの「磯焼け」現象の原因を解明し、海藻が枯死した原因を取り除いた上で海藻群落を人工的に造成するための基礎的研究を行ってきた。しかし、複雑な海洋生態系の中で発生したこの現象を従来の水産生物学的な手法だけで研究することには限界があり、平成13年度からは学長裁量経費の補助を受けて、水産学部、理学部、工学部、農学部、医学部、多島圏研究センターの教官と共同で全学共同研究プロジェクトを開始した。

このプロジェクト研究では、(1) 鹿児島県における磯焼け発生海域の分布調査、(2) 磯焼け発生海域の生物相調査、(3) 磯焼け発生海域の水質分析を行うことによって、磯焼けの発生原因を探るとともに、(4) 鹿児島県沿岸の藻場で優占種となる褐藻ホンダワラ類の生育に及ぼす環境条件の影響を明らかにするとともに、(5) このホンダワラ類を磯焼け海域に再び繁茂させることによって藻場造成を行うための基礎的な知見を得ようとするものである。

プロジェクト初年度の平成13年度には、小型航空機を用いて鹿児島県内の磯焼け海域の分布を迅速に把握する技術開発を行ったが、この他にも、佐多町や頰娃町、奄美大島において磯焼け海域の生物相調査を実施した。また、褐藻ホンダワラ類の初期発生や光合成特性を調べるなど、藻場造成のための基礎的な研究も行っている。

一方、研究プロジェクト活動の一貫として、鹿児島県水産試験場とも協力し、鹿児島県内の市町村の要請に応じて、藻場造成のための技術相談や基礎的な試験研究のコンサルタント業務も行っている。

7. 「鹿児島大学牛海綿状脳症（BSE）対策プロジェクト」（平成13年度～）

平成13年9月に日本国内で牛海綿状脳症（BSE）の第一症例が発生し、食の安全を巡る未曾有の事態に発展する中で、BSEを制御しヒトの健康危害を防止することを目的として、10月に本プロジェクトを発足させた。本プロジェクトには、家畜衛生や食肉検査に従事している獣医学分野に加えて、畜産学分野、さらに医学・歯学・工学・水産学分野などが参画することで、先発研究機関にない特色を求めた。具体的には、(1) 肉骨粉を初めとする飼料ならびに飼育管理における安全性確保対策を検討するグループ（岡本嘉六教授）、(2) 先発研究機関と緊密な関係を取り牛海綿状脳症の診断法を検討するグループ（坂本 紘教授）、(3) プリオン病の病態と発症メカニズムを検討するグループ（岡 達三教授）からなり、相互に協力しながら実験・調査研究を展開することとした。

その後もパニックが進行し、畜産業のみならず流通市場も大混乱する中で、国民生活の安定のため大学が「BSEについての正しい理解」を普及することも重要な社会的役割であると考え、12月22日に本プロジェクトの主催で「市民公開講座：もっと知ろう！

プリオン病（狂牛病）」を開催した（参加者：350名）。その後も医学部 納 光弘教授、農学部 萬田正治教授、杉村崇明教授、岡本嘉六教授などによる講演会活動が続けられ、農林水産省九州農政局と本プロジェクトの連名で「牛海綿状脳症（BSE）問題の正しい知識」が刊行され、鹿児島大学牛海綿状脳症対策プロジェクト・東京大学農学部獣医学科 編集の「音声入り講演CD版」を作成・頒布するに至っている。

獣医学科では微生物学講座の高瀬助教授と病理学の三好助手を動物衛生研究所に研修に派遣し、診断体制の確立に備え、本プロジェクト設立の目的の一つである「帯広畜産大学、国立感染症研究所に次いでBSEの確定診断ができる施設を目指す」主旨に基づいて、BSE専用の研究室を準備するため、家畜生理学実習室をP2対応型に改装して受け入れ体制を整え、また、設備も焦点レーザー走査蛍光顕微鏡一式、イメージアナライザー一式、アミノ酸シーケンサー一式等を整備し、研究の本格化を目指している。

歴代学長

氏 名	任 期	備 考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日	学長事務取扱
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日	
〃	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日	
〃	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月20日	
中 村 末 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	
〃	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日	
〃	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日	
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日	
〃	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日	
井 形 昭 弘	昭和62年 1月12日～平成 3年 1月11日	
〃	平成 3年 1月12日～平成 5年 1月11日	
早 坂 祥 三	平成 5年 1月12日～平成 9年 1月11日	
田 中 弘 允	平成 9年 1月12日～	

役 職 員 平成14年 5月 1日現在

●学長

田 中 弘 允

●副学長

萬 田 正 治

石 田 忠 彦

●学長特別補佐

早 川 勝 光

●学長補佐

田 中 邦 夫

熊 本 一 朗

升 屋 正 人

●運営諮問会議委員

消費生活アドバイザー

京セラ(株)取締役名誉会長

(株)南日本新聞社代表取締役社長

鹿児島商工会議所会頭

鹿児島県医師会会長

鹿屋体育大学長

鹿児島県副知事

愛媛県環境創造センター所長

(株)南日本放送代表取締役社長

鹿児島県高等学校長協会理事長

石 窪 奈 美

稲 盛 和 夫

大 園 純 也

米 西 洋 逸

芝 山 秀 太

高 田 守 國

立 川 涼 美

堅 山 博 勝

坪 田 勝 秀

●評議員

学

副

学

法

文

学

部

教

育

学

部

教

育

〃

長

長

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

田 中 弘 允

萬 石 辰 皆

中 田 村 上

弘 正 忠 吉

中 田 村 上

弘 正 忠 吉

中 田 村 上

弘 正 忠 吉

中 田 村 上

弘 正 忠 吉

中 田 村 上

弘 正 忠 吉

中 田 村 上

理 学 部 教 授

理 学 部 〃

医 学 部 教 授

医 学 部 〃

歯 学 部 教 授

歯 学 部 〃

工 学 部 教 授

工 学 部 〃

農 学 部 教 授

農 学 部 〃

水 産 学 部 教 授

水 産 学 部 〃

附 属 図 書 館 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

附 属 病 院 長

義 宏 利 博

政 俊 克 行

上 高 田 田

井 面 富 永

鉾 之 原

大 工 原

三 西 村

矢 野

皆 川

長 下

衛 青

上 林

石 納

井 荒

山 赤

坂 上

井 荒

山 赤

坂 上

井 荒

山 赤

坂 上

井 荒

山 赤

坂 上

井 荒

山 赤

坂 上

井 荒

山 赤

坂 上

井 荒

山 赤

坂 上

井 荒

山 赤

●事務局

事 務 局

事 務 局

事 務 局

事 務 局

事 務 局

事 務 局

事 務 局

事 務 局

事 務 局

事 務 局

事 務 局

建 太 郎

都 留 男

山 下 森

吉 木

佐 久

山 下

森 吉

木 佐

久 徳

山 下

森 吉

職員の現員

●現 員

(平成14年5月1日現在)

部 局	職 別	学 長	教 授	助教授	講 師	助 手	教 諭	小 計	事務官 技官等	合 計
学 務 局	長	1						1		1
附 属 図 書 館									162	162
桜ヶ丘分館									19	19
水産学部分館									4	4
保健管理センター			1	1				2	2	2
地域共同研究センター				1				1	1	1
総合情報処理センター				1				1	3	4
多島圏研究センター			3	1				4		4
アイソトープ総合センター				1				1		1
留学生センター			2	2				4		4
総合研究博物館			1	3		1		5		5
機器分析センター				1				1	3	4
生命科学資源開発研究センター				2		3		5	3	8
法 文 学 部			52	58		4		114	13	127
教 育 学 部			60	43	4			107	27	134
附属教育実践総合センター			2	1				3		3
附 属 小 学 校							36	36	5	41
附 属 中 学 校							30	30	2	32
附 属 養 護 学 校							27	27	3	30
附 属 幼 稚 園							4	4		4
理 学 部			40	29	3	11		83	16	99
附属南西島弧地震火山観測所				1		1		2	1	3
医 学 部			60	34	22	78		194	51	245
附属腫瘍研究施設			1	1		2		4		4
附属難治性ウイルス疾患研究センター			3	2		1		6		6
附 属 病 院			2	6	30	65		103	487	590
歯 学 部			17	17	3	62		99	43	142
附 属 病 院			1	2	11	34		48	88	136
工 学 部			48	42	2	31		123	52	175
農 学 部			44	33	11	15		103	28	131
附 属 農 場			1	1		1		3	21	24
附 属 演 習 林				2				2	8	10
附 属 家 畜 病 院			1					1	2	3
水 産 学 部			20	18	6	6		50	18	68
附属練習船かごしま丸				1	1	1		3	23	26
附属練習船敬天丸				1	1	1		3	17	20
実 習 船 南 星 丸						1		1	5	6
附属海洋資源環境教育研究センター			2	1		1		4	3	7
大 学 院 連 合 農 学 研 究 科			1 (123)	(55)		(31)		1 (209)		1 (209)
大 学 院 人 文 社 会 科 学 研 究 科			2					2		2
大 学 院 理 工 学 研 究 科			7	4		3		14		14
計		1	371 (123)	310 (55)	94	322 (31)	97	1,195 (209)	1,110	2,305 (209)

(注) 1. () 書きは、兼任、併任教官数を外数で示す。

学生の定員・現員 平成14年5月1日現在

●学 部

学 部 名	学 科 ・ 課 程	入学 定員	3年次編 入学定員	現 員						
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
法文学部	法 政 策 学 科	125	10	137(63)	131(61)	126(43)	165(62)			559(229)
	経 済 情 報 学 科	145		154(68)	161(84)	160(84)	187(62)			662(298)
	人 文 学 科	155		164(113)	164(121)	181(125)	223(153)			732(512)
	法 学 科			—	—	—	15(4)			15(4)
	経 済 学 科			—	—	—	9(0)			9(0)
	小 計	425	10	455(244)	456(266)	467(252)	599(281)			1,977(1,043)
教育学部	学校教育教員養成課程	225	10	238(131)	231(120)	238(124)	314(142)			1,021(517)
	養護学校教員養成課程	15		15(11)	15(9)	15(12)	16(15)			61(47)
	生涯教育総合課程	35		36(26)	42(27)	39(27)	46(31)			163(111)
	小学校教員養成課程			—	—	—	8(3)			8(3)
	中学校教員養成課程			—	—	—	7(1)			7(1)
	特別教科(保健体育)教員養成課程			—	—	—	2(0)			2(0)
	小 計	275		289(168)	288(156)	292(163)	393(192)			1,262(679)
理学部	数 理 情 報 科 学 科	40	10	47(5)	46(10)	75(13)	32(9)			200(37)
	物 理 科 学 科	45		50(16)	45(4)	69(14)	52(4)			216(38)
	生 命 化 学 科	50		53(27)	51(23)	70(24)	47(19)			221(93)
	地 球 環 境 科 学 科	50		54(28)	48(18)	65(22)	56(20)			223(88)
	数 学 科			—	—	1(0)				1(0)
	物 理 学 科			—	—	5(0)	5(0)			10(0)
	化 学 科			—	—	3(0)				3(0)
	地 学 科			—	—	2(0)				2(0)
	小 計	185		204(76)	190(55)	290(73)	192(52)			876(256)
医学部	医 学 科	85	10	86(34)	89(25)	93(31)	100(36)	119(34)	125(35)	612(195)
	保 健 学 科	120	20	121(105)	129(113)	132(112)	133(114)			515(444)
	小 計	205	30	207(139)	218(138)	225(143)	233(150)	119(34)	125(35)	1,127(639)
歯学部	歯 学 科	60		62(22)	70(21)	92(29)	62(15)	42(13)	64(21)	392(121)
工学部	機 械 工 学 科	94	10	96(0)	121(2)	146(4)	95(0)			458(6)
	電 気 電 子 工 学 科	78		123(5)	99(6)	95(4)	79(6)			396(21)
	建 築 学 科	55		65(14)	69(13)	91(15)	58(13)			283(55)
	応 用 化 学 工 学 科	60		70(12)	67(14)	96(21)	52(12)			285(59)
	海 洋 土 木 工 学 科	48		68(9)	48(1)	81(5)	48(0)			245(15)
	情 報 工 学 科	60		63(7)	62(4)	102(4)	46(7)			273(22)
	生 体 工 学 科	60		64(30)	73(21)	67(16)	68(22)			272(89)
	小 計	455	10	549(77)	539(61)	678(69)	446(60)			2,212(267)
農学部	生 物 生 産 学 科	80	10	84(39)	85(51)	82(42)	110(44)			361(176)
	生 物 資 源 化 学 科	60		65(36)	65(35)	69(34)	78(33)			277(138)
	生 物 環 境 学 科	65		72(24)	70(26)	69(25)	80(26)			291(101)
	獣 医 学 科	30		33(17)	32(16)	32(9)	32(18)	33(19)	34(14)	196(93)
	小 計	235		254(116)	252(128)	252(110)	300(121)	33(19)	34(14)	1,125(508)
水産学部	水 産 学 科	130	10	134(52)	141(47)	130(58)	156(43)			561(200)
	水 産 教 員 養 成 課 程	10		13(3)	13(6)	9(2)	17(7)			52(18)
	小 計	140		147(55)	154(53)	139(60)	173(50)			613(218)
計		1,980	50	2,167(897)	2,167(878)	2,435(899)	2,398(921)	194(66)	223(70)	9,584(3,731)

(注) 1. () は女子を内数で示す。
2. 現員には外国人留学生を含む。
3. 医学部医学科の編入学定員は2年次後期編入学定員

●大学院

研 究 科 名	入 学 定 員	現 員								
		修 士 課 程 (博士前期)			博 士 課 程 (博士後期)					合 計
		1 年	2 年	計	1 年	2 年	3 年	4 年	計	
人 文 社 会 科 学 研 究 科	45	53(26)	52(21)	105(47)						105(47)
法 学 研 究 科			1(0)	1(0)						1(0)
教 育 学 研 究 科	38	43(15)	58(20)	101(35)						101(35)
医 学 研 究 科	58				63(13)	50(6)	62(10)	85(13)	260(42)	260(42)
歯 学 研 究 科	18				12(4)	15(5)	3(0)	12(2)	42(11)	42(11)
理 工 学 研 究 科	216	248(30)	244(23)	492(53)						492(53)
	34				39(4)	36(2)	53(7)		128(13)	128(13)
農 学 研 究 科	68	62(29)	44(9)	106(38)						106(38)
水 産 学 研 究 科	32	36(13)	45(12)	81(25)						81(25)
連 合 農 学 研 究 科	22				48(13)	61(12)	77(16)		186(41)	186(41)
計	531	442(113)	444(85)	886(198)	162(34)	162(25)	195(33)	97(15)	616(107)	1,502(305)
山口大学大学院連合獣医学研究科	12				3(2)	2(0)	3(0)	2(0)	10(2)	10(2)

(注) 1. () は女子を内数で示す。
2. 現員には外国人留学生を含む。
3. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・宮崎・琉球の4大学の構成によるものである。
4. 山口大学大学院連合獣医学研究科の現員数は、鹿児島大学（指導教官）に属する学生数である。

※社会人在学生の職業別内訳

研究科名		学 校 教 育			公務員（教員を除く）			民間企業等	合 計
		公立	私立	計	国	地方	計		
人 文 社 会 科 学 研 究 科					7	2	9	17	26
法 学 研 究 科		1		1					1
教 育 学 研 究 科		25	1	26				1	27
医 学 研 究 科					56	31	87	63	150
歯 学 研 究 科					2		2	1	3
理 工 学 研 究 科	博士前期	1		1	1	1	2	0	3
	博士後期	9	9	18	1	6	7	23	48
農 学 研 究 科					1			3	4
水 産 学 研 究 科								1	1
連 合 農 学 研 究 科		4	2	6	7	5	12	6	24
計		40	13	50	45	36	81	82	213
山口大学大学院連合獣医学研究科								5	5

(注) 1. 上記「●大学院」の院生数（現員）のうち社会人在学生を職業別に計上した。

●専攻科

専 攻 科 名	入 学 定 員	現 員
水 産 専 攻 科	40	6 (0)

(注) 1. () は女子を内数で示す。

●教育学部附属学校

学 校 名	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
附 属 小 学 校	普通学級	160	156	158	159	159	164	164	960	各学年 4 学級 計24学級
	複式学級	10	10	10	10	10			40	1・2 年で 1 学級 3・4 年で 1 学級 計 2 学級
	計	170	166	168	169	169	164	164	1,000	

学 校 名	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1 年	2 年	3 年	計	
附 属 中 学 校	普通学級	200	200	203	198	601	各学年 5 学級 計15学級

学 校 名	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
附属養護学校	小学部	3	4	3	3	2	3	3	18	1 学年・2 学年で 1 学級 3 学年・4 学年で 1 学級 5 学年・6 学年で 1 学級 計 3 学級
	中学部	6	7	6	6				19	各学年 1 学級 計 3 学級
	高等部	8	9	8	8				25	各学年 1 学級 計 3 学級

学 校 名	入園定員	現 員				学 級 数
		3 才児	4 才児	5 才児	計	
附 属 幼 稚 園	20	18			18	3 才児、4 才児、5 才児 各 1 学級 計 3 学級
	35		31	33	64	



●附属中学校の総合的な学習（薩摩の食文化コース）



●附属養護学校における作業学習

外国人留学生 平成14年5月1日現在

(出身国別) ※36か国・地域 300名

地 域	国 名	法文学部	教育学部	理学部	医学部	歯学部	工学部	農学部	水産学部	連合農学研究科	留学生センター	合 計
ア	パ キ ス タ ン			1 ①	2 ①		1 ①				1 ①	5 ④
	ト ル コ								1 ①			1 ①
	イ ン ド		1 ①							2 ①	1 ①	4 ③
	バ ン グ ラ デ シ ュ				2		1 ①		1 ①	10 ⑦		14 ⑨
	ス リ ラ ン カ									4 ④		4 ④
ジ	ミ ャ ン マ ー						1 ①			5 ⑤	1 ①	7 ⑦
	タ イ	1				2 ②	1			2 ①		6 ③
	ヴ ィ エ ト ナ ム		1				2 ②		1 ①	5 ③		9 ⑥
	マ レ イ シ ア						12			4 ②		16 ②
	イ ン ド ネ シ ア	1 ①	1 ①	1 ①			3 ①	1	1 ①	17 ⑪	1 ①	26 ⑰
ア	フ ィ リ ピ ン			2 ②	1 ①			1 ①	4 ④	2 ②		10 ⑩
	中 国	13	16 ②	10 ①	20 ③	1	28 ②	17 ①	6	26 ⑦		137 ⑯
	台 湾				1							1
	韓 国	5 ①	1		1	1	4 ①		1	4 ②		17 ④
	モ ン ゴ ル				1 ①							1 ①
中近東	カ ン ボ デ ィ ア									2 ②		2 ②
	ヨ ル ダ ン						1			1 ①		2 ①
	イ エ メ ン							1 ①				1 ①
	イ ラ ン				3 ②					2		5 ②
	オ ー ス ト ラ リ ア				1		1					2
大洋州	パプアニューギニア										1 ①	1 ①
	ソ ロ モ ン 諸 島			1 ①								1 ①
	セ ネ ガ ル			1 ①								1 ①
	コンゴ民主共和国										1 ①	1 ①
	エ ジ プ ト			1 ①						2 ①	2 ②	5 ④
アフリカ	タ ン ザ ニ ア							3				3
	モ ー リ タ ニ ア									1 ①		1 ①
	ル ー マ ニ ア									1 ①		1 ①
	ア メ リ カ 合 衆 国							1		1 ①		2 ①
	メ キ シ コ						1 ①			2 ①		3 ②
メ	ア ルゼンチン		1 ①						1 ①			2 ②
	ブ ラ ジ ル		1				1 ①			1		3 ①
	コ ロ ン ビ ア									1 ①		1 ①
	パ ナ マ						1 ①					1 ①
	カ ナ ダ			1 ①								1 ①
リ	ペ ル ー				1			1	1			3
	合 計	20 ②	22 ⑤	18 ⑨	33 ⑧	4 ②	58 ⑫	25 ③	17 ⑨	95 ⑤④	8 ⑧	300 ⑪⑫

*○印内は内数で国費留学生

(在籍身分別) ※36か国・地域 300名

在 籍 身 分	法文学部	教育学部	理学部	医学部	歯学部	工学部	農学部	水産学部	連合農学研究科	留学生センター	合 計
大学院 博士 [博士後期]	4			7 ②	1 ①						8 ③
” ”	3		3 ③	3 ②		6 ③			42 ⑱		54 ⑳
” ”	2		2 ②	10 ④		10 ④			32 ㉒		54 ㉓
” ”	1		2 ②	6	1 ①	4 ②			21 ⑬		34 ⑱
” 修士 [博士前期]	2	4 ①	5 ①	1		8 ①	6 ②	6 ⑥			30 ⑪
” ”	1	5 ①	3	2 ②		5 ①	4 ①	6 ③			25 ⑧
学 部	6			1							1
” ”	5										
” ”	4	2	1	1		6 ①	2				12 ①
” ”	3	2	5			4	1				12
” ”	2	2	1	2	1	3	3	2			14
” ”	1	1	2	1	1	6		2			13
研 究 生	1	10 ②				4	4				19 ②
科 目 等 履 修 生		2 ②					1				3 ②
特 別 研 究 学 生				1							1
特 別 聴 講 学 生	3	1		1		2	4	1			12
日 本 語 研 修 コ ー ス 生										8 ⑧	8 ⑧
合 計	20 ②	22 ⑤	18 ⑨	33 ⑧	4 ②	58 ⑫	25 ③	17 ⑨	95 ⑤④	8 ⑧	300 ⑪⑫

※大学院連合農学研究科95名の内訳 (鹿大47 ㉔ 宮大22 ㉕ 佐大17 ⑩ 琉大9 ⑥)

*○印内は内数で国費留学生

(経費種別) ＊36か国300名

平成14年5月1日現在

種 別	大 学 院 生	学 部 学 生	研 究 生	科目等履修生	特 別 研 究 生	特 別 聴 講 生	日本語研コース生	合 計
国 費 留 学 生	99 (29)	1 (1)	2	2 (1)			8 (2)	112 (33)
マ レ イ シ ア 政 府 派 遣		7 (4)						7 (4)
イ ン ド ネ シ ア 政 府 派 遣	2							2
イ ラ ン 政 府 派 遣	1							1
鹿 児 島 県 費 留 学 生			2 (1)					2 (1)
短期推進制度による留学生						7 (3)		7 (3)
私 費 留 学 生	103 (34)	44 (14)	15 (5)	1	1 (1)	5 (4)		169 (58)
計	205 (63)	52 (19)	19 (6)	3 (1)	1 (1)	12 (7)	8 (2)	300 (99)

() は女子を内数で示す。

(学部別)

平成14年5月1日現在

学 部	国 費		外 国 政 府 派 遣		私 費		合 計
	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	
法 文 学 部					7 (2)	4 (3)	11 (5)
教 育 学 部		4 (1)			1 (1)	9 (6)	14 (8)
理 学 部					8 (1)		8 (1)
医 学 部					5 (4)	1 (1)	6 (5)
歯 学 部					2		2
工 学 部	1 (1)		7 (4)		11	5 (1)	24 (6)
農 学 部					6 (4)	8	14 (4)
水 産 学 部					4 (2)	1 (1)	5 (3)
合 計	1 (1)	4 (1)	7 (4)		44 (14)	28 (12)	84 (32)

() は女子を内数で示す。

(大学院別)

平成14年5月1日現在

研 究 科	国 費				外 国 政 府 派 遣				私 費				合 計
	修士・博士前期		博士・博士後期		修士・博士前期		博士・博士後期		修士・博士前期		博士・博士後期		
	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	
人文社会科学研究科	2 (2)								7 (3)				9 (5)
教育学研究科	1								7 (4)				8 (4)
医 学 研 究 科			8 (4)								18 (8)	1 (1)	27 (13)
歯 学 研 究 科			2 (2)										2 (2)
理工学研究科	4 (1)		16 (3)						12 (3)	1	11 (2)		44 (9)
農 学 研 究 科	3 (1)								7 (4)	1 (1)			11 (6)
水産学研究科	9 (4)								3				12 (4)
連合農学研究科			54 (12)				3				38 (10)		95 (22)
留学生センター		8 (2)											8 (2)
合 計	19 (8)	8 (2)	80 (21)				3		36 (14)	2 (1)	67 (20)	1 (1)	216 (67)

() は女子を内数で示す。

入学状況 平成14年5月1日現在

●学 部

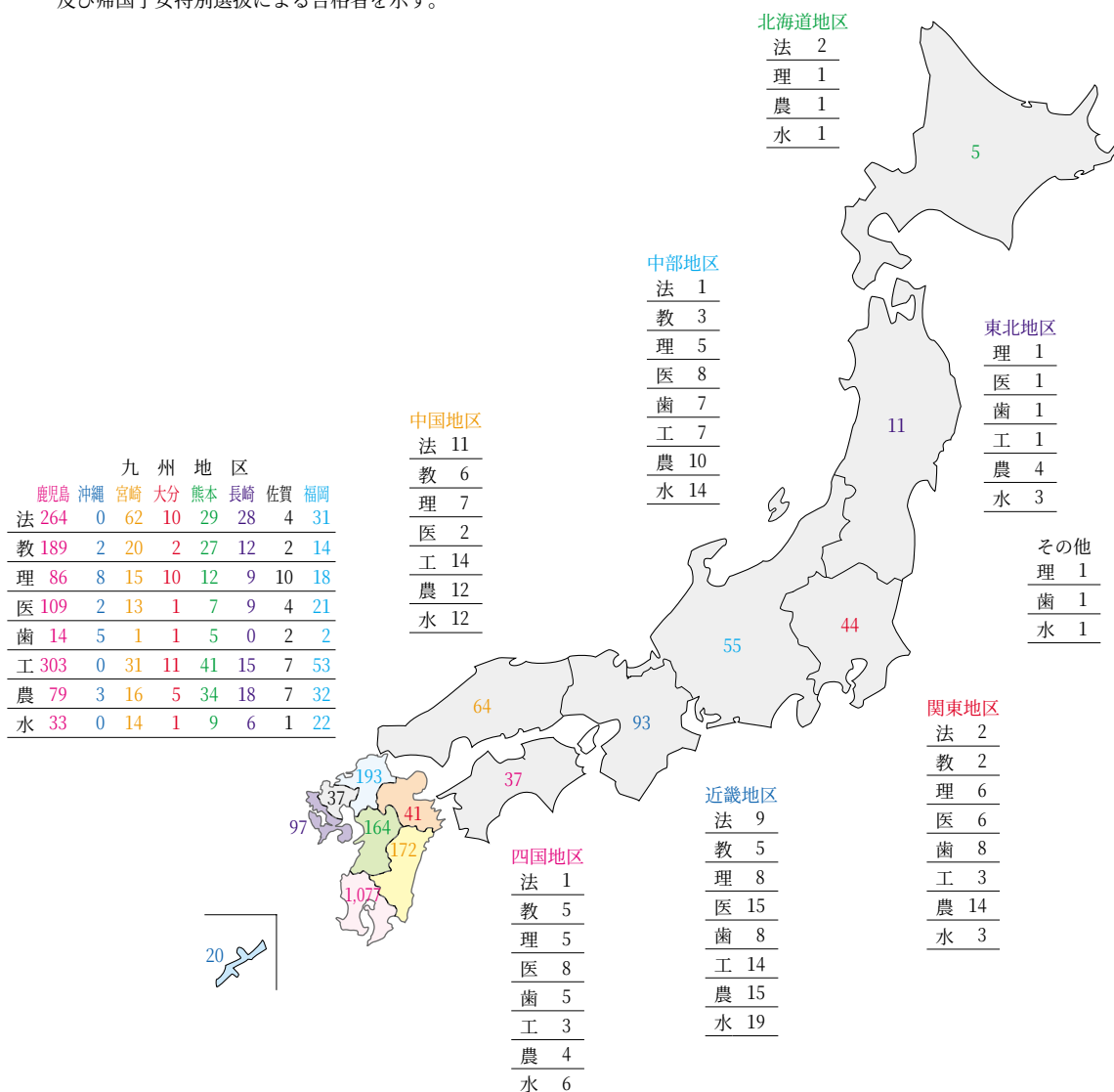
学 部 名	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地別 (百分比) %	
				県 内	県 外
法 文 学 部	425	2,331 (1,169)	※ 1 (1) 454 (243)	58.1	41.9
教 育 学 部	275	1,583 (847)	289 (168)	65.4	34.6
理 学 部	185	580 (217)	※ 2 (1) 202 (75)	42.6	57.4
医 学 部	205	1,184 (676)	※ 1 (1) 206 (138)	52.9	47.1
歯 学 部	60	281 (97)	※ 1 (0) 60 (22)	23.3	76.7
工 学 部	455	961 (143)	※ 5 (1) 503 (74)	60.2	39.8
農 学 部	235	1,171 (543)	254 (116)	31.1	68.9
水 産 学 部	140	801 (302)	※ 2 (1) 145 (54)	22.8	77.2
合 計	1,980	8,892 (3,994)	※12(5) 2,113 (890)	51.0	49.0

(注) 1. () 内は女子を内数で示す。

2. ※印は私費外国人留学生 (マレーシア政府派遣学部留学生を含む) を外数で、その内 () は女子を内数で示す。

●入学者出身地別内訳 (出身高校等所在地による)

(注) その他は、大学入学資格検定試験合格者、在外教育施設及び帰国子女特別選抜による合格者を示す。



●大 学 院

研 究 科 名	入学定員	修 士 課 程 (博 士 前 期)		博 士 課 程 (博 士 後 期)	
		志 願 者 数	入 学 者 数	志 願 者 数	入 学 者 数
人 文 社 会 学 研 究 科	45	※ 5 (2) 89 (46)	※ 5 (2) 48 (24)		
教 育 学 研 究 科	38	※ 6 (4) 52 (23)	※ 3 (2) 40 (13)		
医 学 研 究 科	58			※ 3 (1) 54 (11)	※ 2 (1) 51 (10)
歯 学 研 究 科	18			※ 1 (1) 11 (3)	※ 1 (1) 11 (3)
理 工 学 研 究 科	216	※ 8 (0) 344 (41)	※ 7 (0) 241 (30)		
	34			※ 6 (1) 37 (5)	※ 6 (1) 33 (3)
農 学 研 究 科	68	※ 4 (3) 73 (31)	※ 4 (3) 58 (26)		
水 産 学 研 究 科	32	※ 7 (3) 40 (12)	※ 6 (2) 30 (11)		
連 合 農 学 研 究 科	22			※22 (8) 31 (6)	※21 (8) 27 (5)
合 計	531	※30 (12) 598(153)	※25 (9) 417(104)	※32 (8) 133 (17)	※30 (11) 122 (21)

平成13年度秋季入学

医 学 研 究 科				※ 4 (2) 7 (0)	※ 4 (2) 6 (0)
-----------	--	--	--	----------------------	----------------------

- (注) 1. () は女子を内数で示す。
2. ※は外国人留学生を外数でそのうち () は女子を内数で示す。

●専 攻 科

専 攻 科 名	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数
水 産 専 攻 科	40	8 (0)	6 (0)

- (注) 1. () 内は女子を内数で示す。

卒業(修了)生数及び就職状況 平成14年5月1日現在

●学部

学 部 名	卒 業 生 数 累 計	平 成 13年度 卒業生数	就 業 状 況																
			就 職 希 望 者 数	就 職 者 数	就職率 (%)	業 種 別						地 区 別							
						農 林 業 漁 業	建 設 製 造 電 気	業 業 業 業 金 融	運 輸・通 卸 小 売 金 融 保 険 サ ー ビ ス 業	公 務 員	教 員	そ の 他	関 東	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	鹿 児 島 県 内
法文学部	10,370	449	279	234	83.9		13	159	52	8	2	45	2	7	6	2	48	124	
教育学部	15,083	301	194	170	87.6		18	44	15	92	1	4	2	3	2	1	26	130	2
理 学 部	4,525	175	86	74	86.0	1	14	38	6	15		9	4	1			20	39	1
医 学 部	3,924	105																	
歯 学 部	1,240	58																	
工 学 部	12,048	454	241	218	90.5		158	40	12		8	67	23	45	7		37	38	1
農 学 部	9,466	246	162	138	85.2	3	51	55	25		4	34	8	7	5	2	32	49	1
水産学部	5,787	129	68	56	82.4	6	14	25	6		5	21	1	3	1	1	9	19	1
(文理学部)	2,651																		
計	65,094	1,917	1,030	890	86.4	10	268	361	116	115	20	180	40	66	21	6	172	399	6

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降について計上した。
2. 卒業生数は9月卒業生を含む。

●大学院

研 究 科 名	修 士 課 程		博 士 課 程	
	修了生数 (累計)	平成13年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成13年度 修了生数
人文社会科学研究科	95	37		
法 学 研 究 科	123			
教育学研究科	232	40		
医 学 研 究 科			438	31
歯 学 研 究 科			88	4
理工学研究科	2,581	240	122	17
農 学 研 究 科	1,278	52		
水産学研究科	751	30		
連合農学研究科			318	23
(人文科学研究科)	120	—		
(理学研究科)	539	—		
計	5,719	399	966	75

(注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。

●専攻科

専 攻 科 名	修了生数 (累計)	平成13年度 修了生数
水産専攻科 (特設専攻科を含む)	653	11
(教育専攻科)	124	—
計	777	11

●医療技術短期大学部 (平成14年3月閉学)

学 科 等 名	(累 計) 卒業 生数	卒 平 業 成 13 年 生 度 数 度	就 職 者 数	進 学 者 数	そ の 他	就 職 状 況				
						鹿 大 病 院	その他の病 院・診療所		市 町 村 ・ 保 健 所	
							県内	県外	県内	県外
看 護 学 科	1,014	—								
理 学 療 法 学 科	253	—								
作 業 療 法 学 科	246	—								
専攻科助産学特別専攻	255	20	20			5	7	8		
専攻科地域看護学特別専攻	262	20	20			8	3	3	3	3
計	2,030	40	40			13	10	11	3	3

学位授与状況

(平成14年5月1日現在)

研 究 科 名	修 士		博 士			
	累 計	平成13年度授与	課 程		論 文	
			累 計	平成13年度授与	累 計	平成13年度授与
法 学 研 究 科	123					
人 文 学 科 研 究 科	120					
人文社会科学研究科	95	37				
教 育 学 研 究 科	232	40				
理 学 研 究 科	539					
医 学 研 究 科			511	43	1,326	37
歯 学 研 究 科			103	6	46	3
理 工 学 研 究 科	2,581	240	125	20	22	4
農 学 研 究 科	1,278	52				
水 産 学 研 究 科	751	30				
連 合 農 学 研 究 科			360	36	45	8
計	5,719	399	1,099	105	1,439	52

(注) 1. 医学研究科については、国立移管後の数を計上した。

奨学生

(平成14年5月1日現在)

学 部 等 名		在 学 生 数	日 本 育 英 会			各 種 団 体 会	計	在 学 生 に 対 す る 百 分 率
			第1種奨学生	第2種奨学生	きぼう21プラン			
学 部	法 文	1,977	289	3	220	63	575	29.1
	教 育	1,262	180	2	140	42	364	28.8
	理	876	126	4	96	24	250	28.5
	医	1,127	127	6	168	60	361	32.0
	歯	392	46	6	69	13	134	34.2
	工	2,212	279	15	242	43	579	26.2
	農	1,125	134	3	132	21	290	25.8
	水 産	613	51	0	71	8	130	21.2
	計	9,584	1,232	39	1,138	274	2,683	28.0
水 産 専 攻 科		6	2	0	0	0	2	33.3
大 学 院 (修 士)	人文社会科学	105	11	0	10	0	21	20.0
	法 学	1	0	0	0	0	0	0.0
	教 育 学	101	15	0	5	0	20	19.8
	理 工 学	492	65	0	54	6	125	25.4
	農 学	106	15	0	5	0	20	18.9
	水 産 学	81	12	0	7	2	21	25.9
	計	886	118	0	81	8	207	23.4
大 学 院 (博 士)	理 工 学	128	26	0	1	3	30	23.4
	医 学	260	35	0	0	2	37	14.2
	歯 学	42	7	0	0	0	7	16.7
	連 合 農 学	186	19	0	1	0	20	10.8
	計	616	87	0	2	5	94	15.3
合 計		11,092	1,439	39	1,221	287	2,986	26.9

備考：奨学金月額

日本育英会 (平成14年度入学者)

第1種奨学生 学 部 生：自宅通学42,000円 自宅外通学48,000円

大学院生：修士・博士前期課程85,000円 博士後期課程119,000円

きぼう21プラン 学 部 生：30,000・50,000・80,000・100,000円

大学院生：50,000・80,000・100,000・130,000円

各種団体育英会 10,000～51,000円

国際学術交流協定大学

●国際学術交流協定大学（37大学）

（平成13年度）

締結大学・年月日	締結母体	協定内容	受入数	派遣数	共同研究
（中国）※ 湘潭大学 昭和61年12月11日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	10	3	0
（中国）※ 雲南農業大学 平成元年5月11日	農学部 大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	6	3	1
（中国）※ 湖南農業大学 平成元年6月2日	農学部 大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	6	8	3
（中国） 中南大学 平成5年6月15日	大 学	研究者の交流 学生の交流、事務官・技官等の交流 共同研究・調査、学術出版物の交換	5	1	0
（中国）※ 中国医科大学 平成5年9月13日	医学部 大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物の交換	11	1	1
（中国）※ 湖南大学 平成7年8月23日	工学部 大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物の交換	3	2	0
（中国） 青島海洋大学 平成8年3月20日	大 学	研究者の交流、学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	1	27	1
（中国）※ 南京化工大学 平成11年9月14日	大 学	研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物の交換	3	0	2
（中国） 南開大学情報技術科学学院 平成11年12月27日	工学部	研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物の交換	0	0	0
（中国） 江南大学化学及材料工程学院 平成13年7月12日	工学部	研究者の交流、共同研究・調査 学生への指導助言 出版物の交換	2	0	1
（中国）※ 東北師範大学 平成13年11月13日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	2	8	0
（韓国）※ 釜慶大学 平成7年7月6日	水産学部 大 学	研究者の交流、学生の交流、事務官・技官等の交流 共同研究・調査 出版物等の交換	98	2	0
（韓国）※ 全北大学 平成9年4月22日	大 学	研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流 学術出版物の交換、共同研究・調査の実施	8	4	0
（韓国）※ 群山大学 平成9年12月1日	水産学部 大 学	研究者の交流、学生の交流 事務官・技官の交流、共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	2	0	0
（韓国）※ 済州大学 平成10年1月30日	大 学	教職員の交流、研究員・学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	76	0	0
（韓国）※ 群山看護大学 平成12年8月30日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	1	0	0
（韓国）※ 國光大学 平成12年12月12日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	1	0	0
（韓国）※ 江陵大学 平成13年2月8日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	3	0	0
（韓国） 韓国海洋研究所 平成13年9月28日	水産学部	海洋科学分野における研究者の交流と情報交換 合同航海の推進 共同研究に関する取り決め	0	1	1
（韓国）※ 江原大学 平成14年4月5日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物等の交換	3	0	0
（インド）※ マニパール工業大学 平成12年10月6日	工学部	研究者の交流、事務・技術職員の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	0	2	0
（インドネシア） ボゴール農科大学 昭和57年12月24日	水産学部	教官・研究・研修の協力 技官・大学院学生の交流	2	1	0
（インドネシア）※ ディボネゴロ大学農畜産学部 平成12年3月2日	農学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	1	0	0
（フィリピン） フィリピン大学ヴィサヤ校 平成10年2月26日	水産学部	研究者の交流 共同研究、セミナーの開催 学術出版物の交換	14	15	1
（タイ） チュラロンコン大学石油及び石油化学研究科 平成12年7月28日	工学部	研究者の交流 事務・技術職員の交流 学生の交流 出版物等の交換	4	0	1
（タイ）※ メジョー大学 平成13年4月30日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物等の交換	0	2	0
（タイ）※ 国立モンクット王トン ブリ工科大学生物資源 工学研究科	農学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物等の交換	1	0	0
（ベトナム）※ ハノイ農業大学 平成14年3月6日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物等の交換	0	2	1
（南太平洋12ヶ国・地域）※ 南太平洋大学 昭和57年7月21日	大学 水産学部 南太平洋海域研究センター	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物等の交換	0	0	0
（バブアニューギニア）※ バブアニューギニア大学 昭和62年5月29日	大学 水産学部 南太平洋海域研究センター	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 学術出版物等の交換	2	0	0
（オーストラリア）※ ニューイングランド大学 平成7年7月20日	教養部 大 学	教員・研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の受入れ・派遣、共同研究・調査の実施 学術出版物の情報交換	1	1	0
（オーストラリア）※ シドニー工科大学 平成12年3月1日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	2	1	0
（アメリカ）※ ジョージア大学 昭和54年11月29日	農学部 大 学	教官・学生・事務官・技官の交流 共同研究プログラムの実施 学術出版物の交換	4	3	1
（アメリカ） マイアミ大学 平成4年11月30日	大 学	研究者の交流、学生の受入・派遣 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	0	6	1
（コロンビア）※ パジェ州立大学 平成7年8月30日	大 学	研究者の交流、学生の受入・派遣 共同研究・調査の実施 学術出版物の情報交換	5	1	1
（スベイン）※ マレンシア工芸大学 平成12年2月7日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物等の交換	0	0	0
（タリザニア）※ ソコイネ農科大学農学部 平成11年8月30日	農学部	教官・技官・事務官・学生の交流 共同研究と調査活動 学術出版物の交換	5	1	0
計			282	95	16

※印は、学生交流に関する覚書（授業料不徴収協定）を締結している大学を表す。

外国人研究者の受入状況

(平成13年度)

区 分	研究者数
外国人教師・講師	4
外国人研究員制度による研究員	3
外国人教員	21
国際協力事業団による研修員	20
日本学術振興会による研究員	26
外国政府等支弁による研究員	5
その他の外国人研究員	43
視 察 ・ 見 学	326
計	448



●学長一行の中国雲南農業大学への訪問

学術刊行物

部 局 等 名	刊 行 物 名	発行回数
法 文 学 部	鹿児島大学法文学部紀要 (法学論集、経済学論集、人文学科論集)	年 2 回
	鹿児島大学法文学部国語国文学会誌 (国語国文薩摩路)	年 1 回
	鹿大史学会誌 (鹿大史学)	年 1 回
	鹿児島大学英文学会誌 (鹿大英文学)	年 1 回
教 育 学 部	鹿児島大学教育学部研究紀要 (人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編)	年 1 回
	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属中学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属養護学校研究紀要	隔年1回
理 学 部	鹿児島大学理学部紀要	年 1 回
医 学 部	Acta Medica Universitatis Kagoshimaensis	休 刊
	鹿児島大学医学雑誌	年 4 回
	鹿児島大学医学部保健学科紀要	年 2 回
歯 学 部	鹿児島大学歯学部紀要	年 1 回
工 学 部	鹿児島大学工学部研究報告	年 1 回
農 学 部	鹿児島大学農学部学術報告	年 1 回
	Memoirs of the Faculty of Agriculture Kagoshima University	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場研究報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書	年 1 回
	鹿児島大学農学部演習林研究報告	年 1 回
水 産 学 部	鹿児島大学水産学部紀要	年 1 回
	Mini Review and Data File of Fisheries Reserch	隔年1回
多 島 圏 研 究 セ ン タ ー	南太平洋研究	年 2 回
	南太平洋海域調査研究報告	不 定 期
総 合 研 究 博 物 館	鹿児島大学総合研究博物館モノグラフ	年1～2回

研究員等の受入状況

(平成13年度)

区 分	受 託 研 究 員	内 地 研 究 員	公 研 ・ 私 立 大 学 員 研 修 員	計
法 文 学 部				
教 育 学 部				
理 学 部	1			1
医 学 部	2		1	3
歯 学 部				
工 学 部		3		3
農 学 部				
水 産 学 部				
計	3	3	1	7

歳入歳出決算 平成13年度

●歳 入

(単位：千円)

会 計 名	科 目	収 納 済 歳 入 額
国 立 学 校 特 別 会 計	附 属 病 院 収 入	13,613,615
	授 業 料 及 び 入 学 検 定 料	5,899,994
	学 校 財 産 処 分 収 入	11,400
	雑 収 入	1,457,994
合 計		20,983,003

●歳 出

(単位：千円)

区 分	総 額	国 立 学 校	大学附属病院	産学連携等研究費	施 設 整 備 費	文部科学本省
国 立 学 校 特 別 会 計	37,397,754	20,482,753	13,707,687	280,185	2,927,129	
一 般 会 計	615,769					615,769
合 計	38,013,523	20,482,753	13,707,687	280,185	2,927,129	615,769

各種学術研究費

●科学研究費補助金採択状況

(単位：千円)

学 部 等	平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
学内共同教育研究施設等	1	1,100	2	1,700	2	2,400	4	3,800	5	8,700
法 文 学 部	16	22,200	16	22,300	14	12,100	18	24,500	18	29,400
教 育 学 部	11	13,600	9	8,000	11	29,700	17	29,800	17	22,500
理 学 部	19	31,500	21	36,100	21	47,400	21	40,600	22	41,400
医 学 部	83	168,600	76	151,800	73	190,700	87	202,600	95	231,600
歯 学 部	50	65,300	44	85,800	51	122,000	57	94,300	55	133,900
工 学 部	42	74,900	38	79,600	40	124,900	38	90,600	44	93,000
農 学 部	38	87,900	34	70,600	33	48,900	28	70,300	28	80,800
水 産 学 部	8	14,000	6	10,400	8	12,800	7	10,400	8	15,500
医 療 技 術 短 期 大 学 部	2	2,000	—	—	—	—	—	—	—	—
計	270	481,100	246	466,300	253	590,900	277	566,900	292	656,800

(注) 生命科学資源開発研究センターの平成13年度以前は遺伝子実験施設状況を示す。

●科学技術振興調整費

(単位：千円)

学 部 等	平成13年度	
	件 数	金 額
理 学 部	3	46,036
医 学 部	2	14,743
工 学 部	2	21,764
農 学 部	1	203,448
計	8	285,991

(注) 平成13年度発足。

●受託研究費受入状況

(単位：千円)

学 部 等	平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー							1	500		
教 育 学 部	1	943	1	943	1	943	3	5,793	2	4,443
理 学 部	2	2,825	3	2,983	2	7,598	4	43,628	4	7,512
医 学 部	46	105,472	51	121,141	48	136,669	44	107,056	39	102,335
歯 学 部	6	4,257	7	8,033	7	7,833	9	12,258	7	7,033
工 学 部	13	55,978	15	67,383	10	45,413	12	42,805	15	36,660
農 学 部	7	10,520	7	11,329	12	28,253	16	26,133	11	14,300
水 産 学 部	7	10,292	8	12,585	10	11,309	7	12,900	7	9,520
計	82	190,287	92	224,397	90	238,018	96	251,073	85	181,803

●奨学寄附金受入状況

(単位：千円)

学 部 等	平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
学 内 共 同 利 用 施 設 等	4	1,520	8	4,656	7	2,997	7	4,008	6	7,825
法 文 学 部	5	4,081	4	4,600	6	8,180	4	2,240	4	1,422
教 育 学 部	12	8,646	17	8,811	13	4,720	17	16,760	28	22,392
理 学 部	18	13,548	22	16,151	13	9,680	9	12,940	13	12,376
医 学 部	792	634,743	806	771,156	827	649,979	868	686,413	877	710,794
歯 学 部	54	30,211	58	30,236	53	33,676	31	19,504	49	27,776
工 学 部	96	84,247	101	66,460	108	57,458	96	69,047	93	80,417
農 学 部	76	60,356	62	56,839	66	51,106	58	54,159	57	48,263
附 属 農 場	3	3,478	2	1,500	3	940	3	5,500	2	940
水 産 学 部	22	16,781	19	39,042	17	11,212	9	7,356	25	17,522
医 療 技 術 短 期 大 学 部	14	6,299	8	2,290	—	—	—	—	—	—
計	1,096	863,910	1,107	1,001,741	1,113	829,948	1,102	877,927	1,154	929,727

●民間等との共同研究受入状況

(単位：千円)

学 部 等	平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー	1	2,500	4	5,840	18	9,460	20	15,750	22	10,200
法 文 学 部					1	420				
教 育 学 部							1	420	1	200
理 学 部			2	1,000	2	840	3	1,760	4	1,920
医 学 部	2	2,064	3	4,984	6	5,504	6	5,364	5	4,020
歯 学 部	1	150	1	300	1	300	1	300		
工 学 部	13	22,154	13	28,355	11	32,410	20	57,765	21	30,480
農 学 部	1	200	1	2,420	2	2,840	4	3,590	4	3,370
水 産 学 部	2	2,000	2	2,000	1	1,500	2	4,420	2	4,420
計	20	29,068	26	44,899	42	53,274	57	89,369	59	54,610

公開講座

(公開講座)

(平成14年度)

講座名 (実施部局)	開設期間 時間帯	時間数 (時間)	講習料 (円)	受講対象者	募集人員 (人)	開催場所
超高齢社会と介護保険、 成年後見 (法文学部)	8/3～9/14 13:00～15:00	14	6,800	市民一般及びケア マネージャー等福 祉行政関係者	50	法文学部
「21世紀の人づくり、モ ノづくり、地域づくり」 (法文学部)	7/12～9/6 18:00～20:30	15	6,800	市民一般	50	川辺町文化会館
世界の食文化 (法文学部)	6/1～7/20 13:30～16:30	25	8,800	市民一般	60	法文学部
薩摩半島西岸地区と地域 資源活用ビジョン (法文学部)	7/27 13:00～18:00	5	4,800	市民一般	20	串木野市市民ホール
コンピュータと教育 (教育学部)	7/24～7/26 9:00～16:20	18	7,800	教育関係者	15	教育学部
地域学校経営論 (教育学部)	8/22～8/23 10:00～16:00	10	5,800	現職教員	20	溝辺町竹子公民館
Active Aging—リハビリテーシ ョンからケアまで—(牧園町) (医学部)	8/4 9:00～16:00	5	4,800	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	80	霧島リハビリテーショ ンセンター
Active Aging—リハビリテーシ ョンからケアまで—(鹿児島市) (医学部)	9/8 9:00～16:00	5	4,800	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	120	医学部鶴陵会館
Active Aging—リハビリテーシ ョンからケアまで—(宮崎市) (医学部)	10/6 9:00～16:00	5	4,800	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	100	宮崎県看護等研修セン ター
Active Aging—リハビリテーシ ョンからケアまで—(那覇市) (医学部)	11/24 9:00～16:00	5	4,800	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	100	那覇市自治会館
高齢者の介護 (医学部保健学科)	8/24 9:30～16:00	5	4,800	医療従事者・福祉 関係者	40	医学部保健学科
理学療法士・作業療法士 のための統計処理 (医学部保健学科)	6/1、6/15 13:30～16:30	6	5,800	理学療法士・作業 療法士	20	医学部保健学科
ストーマ造設者のQOL 向上への援助 (医学部保健学科)	8/3 9:30～17:00	6.5	5,800	保健師、助産師、 看護師、准看護師	50	医学部保健学科
生涯スポーツ講座(スコティ ッシュ・カントリー・ダンス) (医学部保健学科)	10/6、11/4 10:00～16:00	10	5,800	市民一般	20	医学部保健学科
「歯科医療の最前線：顎 口腔機能の再建」 (歯学部)	12/8 9:00～13:00	4	4,800	歯科医師、歯科衛 生士、歯科技工士、 歯科医療関係者	30	鹿児島県歯科医師会館
「三次元的X線診断に基づく歯科治療」 (インプラント・顎変形症への応用) (歯学部)	7/28 9:00～13:00	4	4,800	歯科医師、歯科衛生士、 歯科技工士、歯科医療 関係者、放射線技師	30	鹿児島県歯科医師会館
トピックス建築再生 (工学部)	10/19 13:30～18:30	5	4,800	建築業関係者・行 政担当者・市民一 般・学生等	50	工学部
土着微生物の採取・培養・活用(生 ゴミ処理、作物、野菜、花卉、果樹 および家畜、その他広範囲利用) (農学部附属農場)	8/20 10:00～16:00	5	4,800	農業従事者及び市 民一般	35	農学部附属農場
海の流れと海岸漂着物 (水産学部)	9/7 10:00～17:00	5	4,800	一般(高校生以上)	30	水産学部 (実習は鹿児島湾沿岸)
大学博物館への誘い (総合研究博物館)	6/22 10:00～16:00	5	0	市民一般	20	総合研究博物館
自然体験ツアー (総合研究博物館)	7/27 8:30～17:00	8	0	市民一般 (小中学生とその 父兄)	40	鹿児島湾北部一帯
こどもたちが学ぶ森のしくみ —森林における総合的な学習 の時間の進め方— (農学部)	10/12～10/13 10:00～16:00	10	0	小学校教諭	20	鹿児島大学農学部附属 高隈演習林
合計(22)講座		180.5			1,000	

土地・建物・船舶

(平成14年 5 月 1 日現在)

区 分			土 地 (㎡)	建 物 (延面積㎡)			備 考 (単位㎡)	
				木 造	非 木 造	計		
土	郡元地区	事 務 局	233,630 (22)	1,475	10,537	12,012		
		保 健 管 理 セ ン タ ー		0	561	561		
		附 属 図 書 館		0	12,697	12,697		
		法 文 学 部		0	6,930	6,930		
		理 学 部		0	12,290	12,290		
		工 学 部		0	33,415	33,415		
		農 学 部		210	31,857	32,067		
		共 通 教 育		0	17,616	17,616		
		そ の 他		0	10,711	10,711		
		教 育 学 部	118,010	489	40,381	40,870		
	小 計	351,640 (22)	2,174	176,995	179,169			
地	桜ヶ丘地区	医学部及び同附属病院	218,726 (4)	0	88,664	88,664	看護婦宿舎 (土地 4,431) (建物 4,127)	
		歯学部及び同附属病院		0	23,203	23,203		
		亀ヶ原総合グラウンド		0	52	52		
		医療技術短期大学部		0	7,409	7,409		
		桜ヶ丘 寄 宿 舎		0	3,122	3,122		
		小 計		218,726 (4)	0	122,450		122,450
	下 荒 田 地区	水 産 学 部	49,153	93	12,046	12,139	備外人宿舎 (土地438 建物223) 宿舎 (土地 3,455) (建物 1,891)	
		国際交流会館 (1号館)		0	1,430	1,430		
		〃 (2号館)		0	1,259	1,259		
		小 計		49,153	93	14,735		14,828
及	その他	唐 湊 寄 宿 舎	24,696	0	5,694	5,694	宿舎 (土地2,714 建物916)	
		唐 湊 果 樹 園	72,682	0	1,015	1,015		
		唐 湊 林 園	9,957	19	0	19		
		寺山自然教育研究施設	301,248	0	831	831		
		教育学部附属養護学校	16,776	509	3,058	3,567		
		桜 島 火 山 観 測 点	297	0	31	31		
		霧島リハビリテーションセンター	16,336 (826)	6	4,409	4,415		
		高 隈 演 習 林	30,620,836	88	1,535	1,623		
		佐 多 演 習 林	2,992,325	0	166	166		
		入 来 牧 場	1,478,451 (25)	0	3,497	3,497		
建	その他	垂 水 実 験 地	4,622	68	0	68	宿舎 (土地220 建物69)	
		桜 島 溶 岩 実 験 場	372,713	0	0	0		
		指 宿 植 物 試 験 場	39,127	313	2,047	2,360		
		東 町 ス テ ー シ ョ ン	16,902	0	1,183	1,183		
		鴨 池 臨 海 地	4,990 (94)	0	1,642	1,642		
		職員会館及び外国人宿泊施設	955	0	717	717		
		磯 艇 庫	407 (202)	0	243	243		
		谷 山 ふ 頭	0 (1,156)	0	0	0		
		平 川 艇 庫	0 (595)	0	208	208		
		甕 島 観 測 点	0 (49)	0	24	24		
物	その他	伊 集 院 観 測 点	0 (7)	0	0	0	その他の宿舎 (土地 16,382) (建物 9,034)	
		屋 久 島 観 測 点	0 (109)	0	40	40		
		串 間 観 測 点	0 (58)	0	58	58		
		紫 尾 観 測 点	0 (58)	0	58	58		
		黒 島 観 測 点	0 (58)	0	58	58		
		佐 多 観 測 点	0 (58)	0	11	11		
		高 岡 観 測 点	0 (105)	0	40	40		
		吉 松 観 測 点	0 (47)	0	0	0		
		田 代 観 測 点	0 (6)	0	0	0		
		小 計	35,973,320 (3,453)	1,003	26,565	27,568		
合 計			36,592,839 (3,479)	3,270	340,745	344,015	宿舎 (土地 29,420) (建物 16,589)	
船 舶	船 名	トン数(トン)	機 関	馬 力	長 さ (m)	幅 (m)	深 さ (m)	建 造 年 月 日
	か ぎ し ま 丸	1,297.08	ディーゼル	2,200	62.70	12.60	5.45	昭和56年10月30日
	敬 天 丸	860.25	〃	2,000	57.04	11.00	6.90	昭和49年 7 月 5 日
	南 星 丸	82.97	〃	400	22.00	5.70	2.55	昭和51年 3 月 8 日

(注) 1. 土地欄 () 内数量は借用地
2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

地区別建物等配置図

郡元地区 事務局・法文学部・教育学部・理学部・工学部・農学部
 大学院連合農学研究科・附属図書館・保健管理センター
 地域共同研究センター・総合情報処理センター・多島圏研究センター
 アイソトープ総合センター・留学生センター・総合研究博物館・機器分析センター・生命科学資源開発研究センター



郡元地区

- | | | |
|--|--|-----------------------|
| ① 事務局・機器分析センター | ② 工学部機械工学科第三実験棟 | ⑤ 共通教育棟4号館（理科研究室） |
| ② 保健管理センター | ②③ // 機械工学科2号棟 | ⑤⑥ 中央図書館 |
| ③ 事務局車庫、電話交換室、埋文調査室 | ②④ // 建築学科棟 | ⑤⑦ 法文学部管理棟・研究棟・講義棟 |
| ④ 農学部1号館（管理室・生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室） | ③⑤ // 電気電子工学科棟 | ⑤⑧ // 研究棟・講義棟 |
| ⑤ 農学部2号館（獣医学科実験研究室） | ③⑥ // 機械工学科第一実験棟 | ⑤⑨ // 講義棟 |
| ⑥ // 附属家畜病院 | ③⑦ // 機械工学科1号棟 | ⑤⑩ 課外活動共用施設 |
| ⑦ // 3号館（生物資源化学科・生物環境学科実験室・農業経営経済学研究室） | ③⑧ // 応用化学工学科1号棟 | ⑤⑪ 第1体育館 |
| ⑧ // 4号館（生物生産学科・生物環境学科実験室・農業経営経済学研究室） | ③⑨ // 機械工学科第二実験棟 | ⑤⑫ 第2体育館 |
| ⑨ // 5号館（生物生産学科・生物環境学科実験研究室） | ③⑩ // 応用化学工学科2号棟 | ⑤⑬ 教育学部武道場 |
| ⑩ // 6号館（生物生産学科実験研究室・農業経営経済学研究室） | ③⑪ // 海洋波動実験棟 | ⑤⑭ // 体育科実験研究棟 |
| ⑪ // 7号館（獣医学科） | ③⑫ // 薬品庫 | ⑤⑮ // 管理棟・理系研究棟 |
| ⑫ 倉庫 | ③⑬ // 海洋土木工学科棟 | ⑤⑯ // 講義棟 |
| ⑬ 生命科学資源開発研究センター・アイソトープ総合センター | ③⑭ // 情報工学科棟 | ⑤⑰ // 実習棟 |
| ⑭ R I 実験室 | ④ 地域共同研究センター | ⑤⑱ // 講義棟 |
| ⑮ 農学部温室 | ④① 工学部管理棟 | ⑤⑲ // 文系研究棟 |
| ⑯ // 植物研究実験施設 | ④② 稲盛会館 | ⑤⑳ // 音楽美術科棟 |
| ⑰ // 網室・硝子室 | ④③ 倉庫 | ⑥ 教育実践総合センター |
| ⑱ // 附属農場動物飼育棟 | ④④ 総合研究博物館 | ⑥① 屋内プール50m |
| ⑲ // 附属農場研究実験棟 | ④⑤ 理学部1号館（管理室・物理科学科・地球環境科学科実験研究室・講義室） | ⑥② 教育学部附属幼稚園 |
| ⑳ // 低温貯蔵実験室 | ④⑥ // 2号館（数情報科学科・生命化学科・地球環境科学科・生命化学科実験研究室・講義室） | ⑥③ // 附属中学校 |
| ㉑ // 水理実験室 | ④⑦ // 3号館（生命化学科実験研究室・講義室） | ⑥④ // 附属中学校体育館 |
| ㉒ // 昆虫飼育棟 | ④⑧ 総合情報処理センター・留学生センター | ⑥⑤ // 附属小学校 |
| ㉓ 中央変電所 | ④⑨ 大学会館（1・2・4号館） | ⑥⑥ // 附属小学校体育館 |
| ㉔ ボイラー室・廃液処理施設 | ④⑩ // 大集会室（3号館） | ⑥⑦ // 昆虫飼育室 |
| ㉕ 中央食堂 | ④⑪ 共通教育棟1号館（管理室・講義室） | ⑥⑧ 教育学部倉庫 |
| ㉖ 工学部中央実験工場 | ④⑫ // 2号館（文科研究室） | ⑥⑨ 弓道場 |
| | ④⑬ // 3号館（理科研究室） | ⑥⑩ 体育系サークル合宿研修所 |
| | | ⑥⑪ 大学院連合農学研究科棟 |
| | | ⑥⑫ 馬術部馬房 |
| | | ⑥⑬ 郡元南食堂 |
| | | ⑥⑭ 総合教育研究棟（多島圏研究センター） |

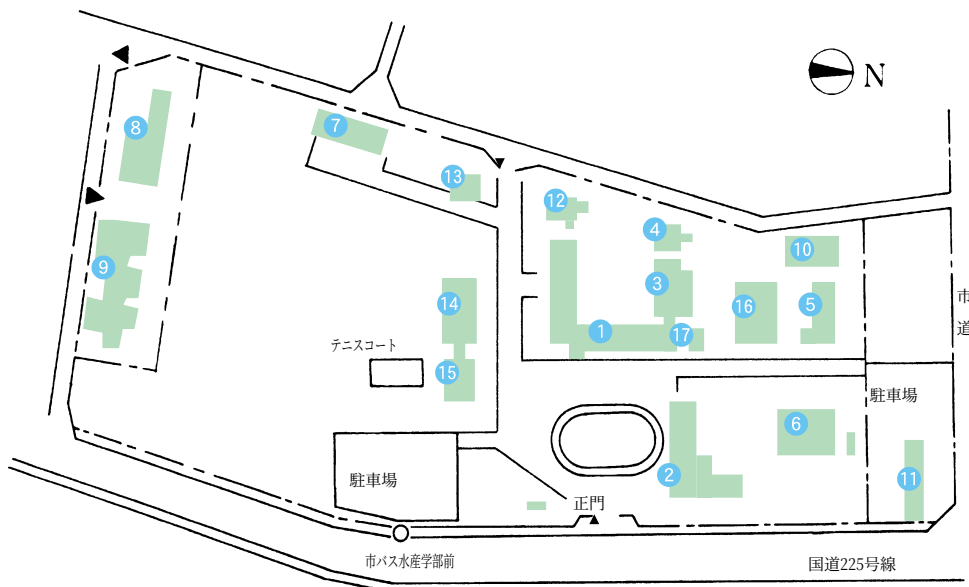
桜ヶ丘地区 (医学部・附属病院) (歯学部・附属病院)



桜ヶ丘地区

- | | | |
|--------------------------------|----------------------|------------|
| ① 医学部臨床講義棟 | ⑪ 医学部附属病院管理棟 | ⑳ 弓道場 |
| ② // 臨床研究棟
(腫瘍研・難治性ウイルス疾患研) | ⑫ // 基礎講義室・共同利用棟 | ㉑ 歯学部基礎研究棟 |
| ③ // 基礎研究棟 | ⑬ 中央機械棟 | |
| ④ // R I 実験施設 | ⑭ ポンプ室 | |
| ⑤ // 動物実験施設 | ⑮ ライナック治療室 | |
| ⑥ // 福利厚生施設 | ⑯ 附属図書館桜ヶ丘分館 | |
| ⑦ // 学生寄宿舍 | ⑰ 体育器具庫 | |
| ⑧ // 附属病院看護婦宿舎 | ⑱ 廃液処理施設 | |
| ⑨ // 附属病院診療棟・病棟 | ㉒ 歯学部・附属病院病棟・研究棟・診療棟 | |
| ⑩ // 附属病院結核伝染病棟 | ㉓ 歯学部解剖実習棟 | |
| | ㉔ 桜ヶ丘体育館 | |
| | ㉕ 運動器具庫 | |
| | ㉖ 医学部保健学科 | |
| | ㉗ 医療情報施設 | |
| | ㉘ M R I - C T 装置棟 | |
| | ㉙ 医・歯学部課外活動施設 | |
| | ㉚ 鶴陵会館 | |
| | ㉛ 医学部校舎 | |

下荒田地区 (水産学部)



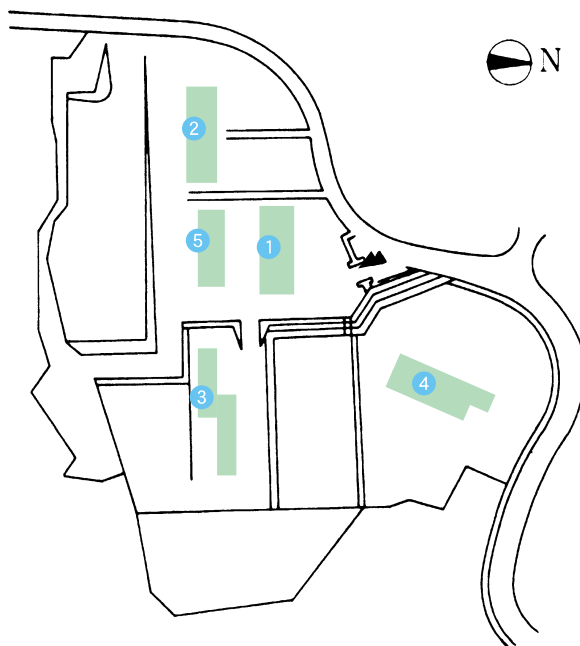
下荒田地区 (水産学部)

- ① 管理・研究棟
- ② 資源利用科学棟
- ③ 管理・研究棟
- ④ 変電室・電話交換室
- ⑤ サークル棟
- ⑥ 資源利用科学実習棟
- ⑦ 福利施設
- ⑧ 国際交流会館 (1号館)
- ⑨ " (2号館)
- ⑩ 大型回流水槽実験棟
- ⑪ 職員宿舎
- ⑫ 車庫
- ⑬ ボイラー室
- ⑭ 資源育成科学棟
- ⑮ 附属図書館水産学部分館
- ⑯ 講義棟
- ⑰ 倉庫

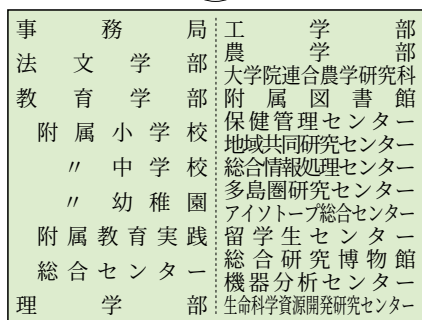
学生寮

学生寮

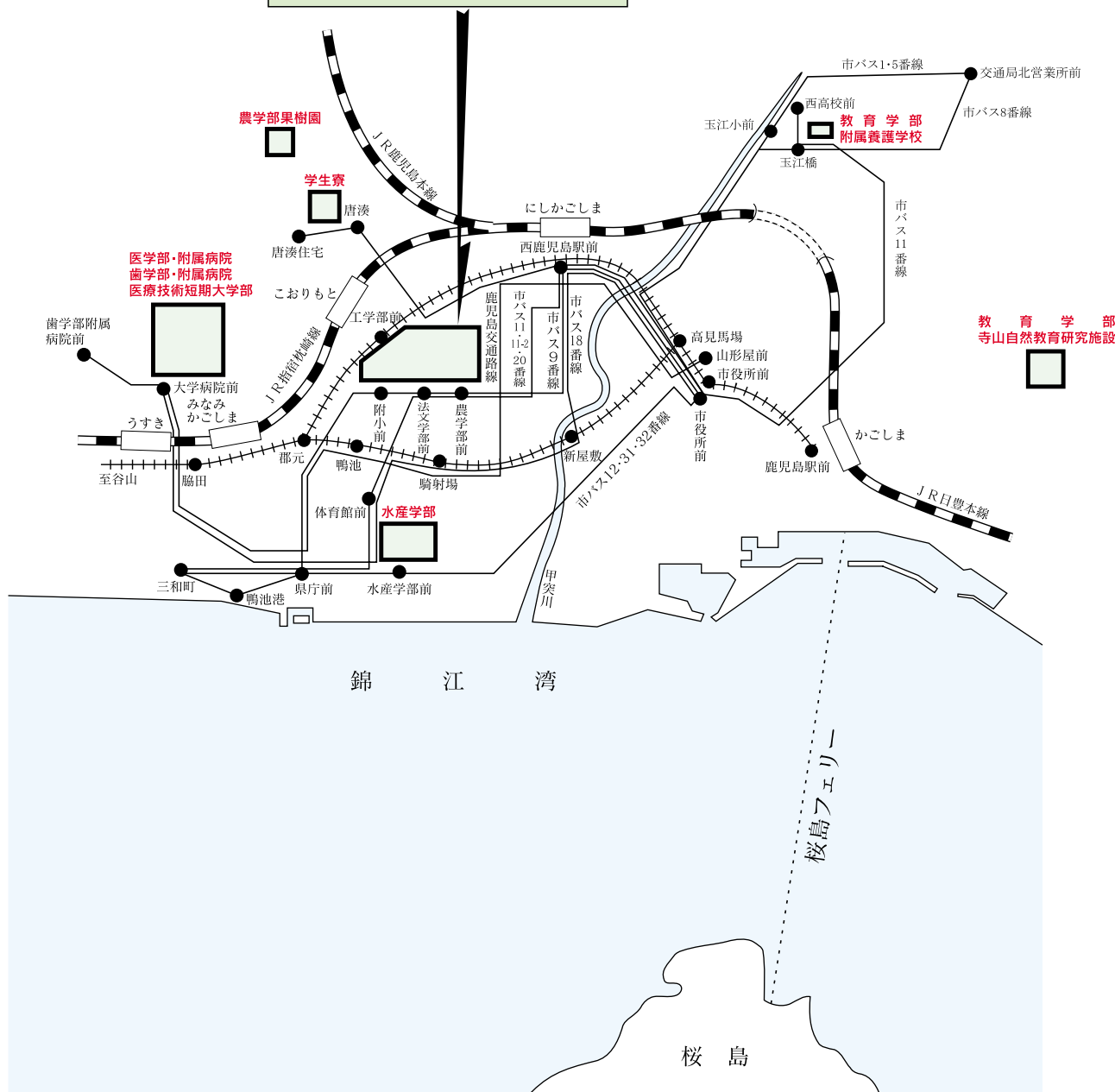
- ① 男子寄宿舍 A 棟
- ② " B 棟
- ③ " 5 号寮
- ④ 女子寄宿舍
- ⑤ 共用棟



交通機関利用略図



学 部 等		交 通 機 関		
事務局・農学部・大学院連合農学研究科・保健管理センター・アイソトープ総合センター・総合研究博物館・機器分析センター・生命科学資源開発研究センター		市	9・11・11-2・20番線(鴨池港行) 農学部前	
法文・教育・教育学部附属教育実践総合センター・理・工学部・附属図書館・地域共同研究センター・総合情報処理センター・多島園研究センター			9・11・11-2・20番線(鴨池港行) 法文学部前	
附属小学校・中学校・幼稚園			9番線(鴨池港行)―附属小学校前	
附属養護学校		営	8番線(交通局北営業所前行) 玉江橋 11・11-2番線(西高校前行) 1・5番線(交通局北営業所前行) 玉江小前 24番線(緑ヶ丘団地行)	
水産学部			バ ス	11・11-2番線(鴨池港行) 15番線(紫原行) 体育館前 17番線(広木農協前行) 18番線(大学病院經由桜ヶ丘行) 12・31・32番線(三和町行)―水産学部前
医学部・附属病院 歯学部・附属病院				18 (大学病院經由 大学病院前 桜ヶ丘行) 歯学部病院前
学生寮		私営バス 鹿兒島交通線 大学病院前 バ ス 25番線(唐湊住宅行) 唐湊		



所在地一覧

事務局	〒890-8580	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表) 時間外099(285)7188
共通教育棟	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表) 時間外099(285)8834
法文学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
教育学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表) 時間外099(285)7729
附属小学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7962
附属中学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番35号	☎099(285)7932
附属養護学校	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎099(224)6257
附属幼稚園	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎099(285)7990
附属教育実践総合センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
理学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7111(代表)
附属南西島弧地震火山観測所	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎099(244)7411
医学部	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表・時間外)
附属腫瘍研究施設	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
附属難治性ウイルス疾患研究センター	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
附属病院	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表・時間外)
リハビリテーション科 (霧島リハビリテーションセンター)	〒899-6603	始良郡牧園町高千穂3930-7	☎0995(78)2457・2538(代表・時間外)
歯学部	〒890-8544	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表・時間外)
附属病院	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表・時間外)
工学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
農学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属農場	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)8771
唐湊果樹園	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎099(254)1042
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291番地	☎0993(22)2848
入来牧場	〒895-1402	薩摩郡入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
附属演習林	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8744
高隈演習林	〒891-2101	垂水市海潟3237番地	☎0994(32)6329
佐多演習林	〒893-2604	肝付郡佐多町馬籠349	☎09942(7)3002
附属家畜病院	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)8750
水産学部	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
附属海洋資源環境教育研究センター	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4296
附属海洋資源環境教育研究センター 東町ステーション	〒899-1403	出水郡東町諸浦字蛤潟1620-3	☎0996(64)5013
大学院連合農学研究科	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属図書館	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7415
桜ヶ丘分館	〒890-0075	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5201
水産学部分館	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4051
保健管理センター	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7385
地域共同研究センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)8491
総合情報処理センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)7474
多島圏研究センター	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7394
アイソトープ総合センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
留学生センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎099(285)3601
総合研究博物館	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎099(285)8141
機器分析センター	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
生命科学資源開発研究センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)3581
稲盛会館	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
大学会館	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎099(285)7324
学生寮	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎099(251)3238・099(254)9098
国際交流会館(1号館)	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)6446
〃(2号館)	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)6446
職員会館(天心荘)	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	☎099(252)0577
外国人研究員宿泊施設	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	

キャンパスの全景

- 郡元キャンパス



(平成11年 5 月撮影)

- 桜ヶ丘キャンパス



(平成11年 5 月撮影)

- 下荒田キャンパス



(平成12年 4 月撮影)

鹿児島大学位置図



●鹿児島大学からの距離(km)

①	農学部桜島溶岩実験場	9
②	農学部附属演習林高隈演習林	48
③	農学部附属演習林佐多演習林	110
④	医学部附属病院リハビリテーション科 (霧島リハビリテーションセンター)	65
⑤	農学部附属農場入来牧場	30
⑥	農学部附属農場指宿植物試験場	45
⑦	水産学部附属海洋資源環境教育 研究センター東町ステーション	117

鹿児島大学学章



(創立50周年を記念して制定)

鹿児島大学のアルファベットの頭文字「K」をデザインしたものである。

今、まさに飛び立とうとしている姿を「^{飛び立ち}願

し、歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを築立つ

卒業生が世界の舞台を^{飛び立ち}翔ようとしている姿をシンボル化し

たものである。

表紙デザイン：中尾零士

鹿児島を象徴する桜島を「KAGOSHIMA」の文字でカラフルに表現し、全体は白をベースに青のアクセントカラーで明るくさわやかにまとめた。

編集・発行 鹿児島大学総務部総務課

〒890-8580 鹿児島市郡元一丁目21番24号

代表電話 099(285)7111

F A X 099(285)7034

U R L <http://www.kagoshima-u.ac.jp>

発 行 日 平成14年 6 月

